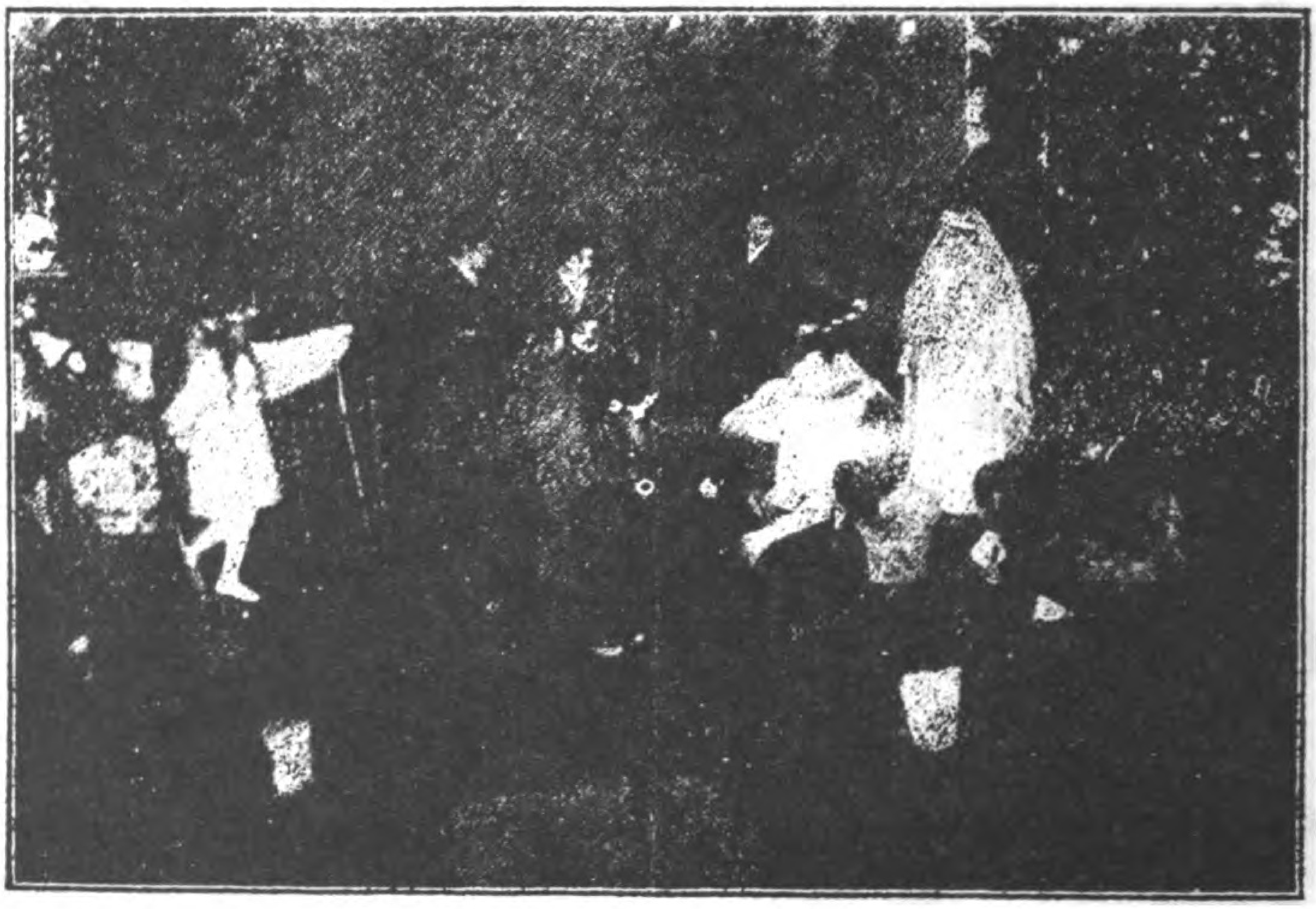
大正九年一月一日發行　大正八年十二月二十八日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

新年號

女子青年會パジエント　市內の光景



愛を以て互に事ることをせよ、

汝等彼此の勞を任へ斯してキリストの律法を全ふすべし、

祝クリスマス
謹賀新年

大阪基督教女子青年會
大阪北區天滿橋筋二丁目九十九

會長　淺井泰子
幹事　ミス、ハード
同　山本琴子
他委員職員一同

祝クリスマス
謹賀新年

神戸基督教女子青年會
神戸本町二四三

會長　長谷塲まさ子
幹事　ミス、タピング
同　大呑久子
他委員職員一同

祝クリスマス
謹賀新年

京都基督教女子青年會
（準備中）
京都室町通り武者小路上る

幹事　ミス、クロフオード
同　林秋子
他委員職員一同

賀正
東京青年會副會長
今西糸子
東京市外池上市ノ倉

賀正
英學塾教頭
青年會中央委員
星野愛子
東京麹町五番町一六

賀正
英學塾々長代理
青年會中央委員
辻まつ子
東京市外千駄谷三八五

賀正
青年會中央委員
松岡鎭枝
東京々橋區五郎兵衛町一

賀正
青年會中央委員長
井深花子
東京芝白金今里町

賀正
東京女子大學々監
安井哲子
東京小石川大塚坂下町一〇三

賀正
青年會中央委員
ミセス、クレメント
東京牛込區南町三四

賀正
青年會中央委員
ミス、デントン
京都同志社女學校内

賀正
女子學院學監
青年會中央委員
三谷民子
東京麹町上二番町

賀正
香蘭女學校教頭
青年會中央委員
長谷川喜多子
東京芝白金三光町三九七

賀正
東京青年會音樂部主任
秋元俊子
東京小石川關口臺町六尾澤方

賀正
東京青年會委員
松宮しん子
東京牛込市谷田町二ノ二一

賀正
東京青年會委員
左近まつ子
東京青山南町五ノ三七

賀正
東京青年會巡回
產婆看護婦會
田丸米子
東京府下豐島郡尾久村

賀正
東京青年會
第一寄宿舍舍監
門倉ふじ子
東京牛込納戸町四五

賀正
東京青年會第二寄宿舍舍監
大西絹子
東京小石川水道町二八

賀正
東京青年會第三寄宿舍舍監
青木廣子
東京神田北神保町一四

賀正
青年會中央委員
田中まさ子
東京青山南町六ノ一〇八

賀正
宗像正子
東京小石川小日向臺町三ノ八七 河口方

賀正
外山信子
東京芝白金猿町六一

賀正
ミス、マシユー
浦鹽 イルクック

賀正
女子青年會幹事
河井道子
東京牛込神樂坂町一ノ二六

賀正
新渡戸琴子
東京小石川小日向臺町一ノ七五

賀正
ミス、ウエスト
東京芝二本榎南町

謹賀新年
女子英學塾青年會
東京麴町五番町一六

謹賀新年
東京女子大學青年會
東京市外淀橋角筈一〇〇

謹賀新年
東洋英和女學校女子青年會
東京麻布鳥居坂町

謹賀新年　青山女學院青年會　東京市外澁谷

謹賀新年　女子學院青年會　東京麹町上二番町

謹賀新年　傳道女學校青年會　東京小石川指谷町八四

謹賀新年　フヱリス女學校青年會　横濱市山手町

謹賀新年　共立女學校青年會　横濱市山手町

謹賀新年　横濱英和女學校青年會　横濱市蒔田町

謹賀新年　捜眞女學校青年會　神奈川市一本松

恭賀新年

大正九年一月一日

東京市芝區櫻田和泉町

三成舍

クリスマスを祝し併て新年の御喜び申納め候

昨年中は本會の爲多大の御同情と御援助とを賜り厚く御禮申上候御蔭樣にて本會各市部とも順調なる發達をなし居候間御喜び下され度候。時代の趨勢人心の要求と共に本會の使命を愈ゝ明ならしむる今日大なる抱負を以て來るべき歲の働に着手致し委員職員相共に一層責任を重じ實行に努め度存じ居候間何卒今後とも御助力賜り度御挨拶旁々御願申上候。尚本會現在會員數四千五百名(大正八年五月調)職員外人十一人日本人卅一人に候間以序御報告申上候　敬具

日本基督敎女子青年會本部

委員長　井深花子

幹事　河井道子

ミス、ペーヂ

同　堀順子

陶山米子

淺井治

祝クリスマス

謹賀新年

東京基督敎女子青年會

東京市神田區北神保町十四番地

幹事　加藤高子

同　ミス、カフマン

學生部幹事　渡邊百合子

同　ミス、ダニング

敎育部幹事　中要司娜子

同　坂本花代

事務係　羽太鈴枝

旅行者の友　林房子

女子青年界目次

第十七巻第十二號

大正九年一月號

▼會　說▲

FURS
D. KOMEYA
PROP. C. YAMAOKA,
(TANNER)

Furs, Coats, Stoles, Muffs, Brocade Linings, Slippers, Feathers, and Water-color pictures.

No. 14, Benten-dori, Itchome, Yokohama.
Tel. 3370.

PICTURE DEPT.
No. 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama.

BRANCH:
Tel. Shimbashi 2179.
No. 1, Minamikinroku-cho, Kyobashi, Near Shimbashi, Tokyo.

MAIN STORE-NIKKO
Summer Branch Karuizawa

貴婦人令孃用
毛皮コート　襟巻　マフ　スリッパー　羽毛
絹裏地　水彩畫類　其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〳〵取揃へてありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品でありますご御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目十四番地
コメヤ號　山岡商店　電話長二三七〇番
東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號　山岡商店　電話新橋二一七九
夏期出張所　**信州輕井澤**

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切
外國人交際用贈答用品充實完備
內地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點は品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通一丁目拾貳番地
辨天商會

女子青年界　第十七巻一月號　大正九年一月一日發行

會説

新年の賜物

河井道子

クリスマスの常盤木に樣々の贈物が下つて居る樣に又正月の御飾に橘柑、橙、鰕、お餅と飾り立てられてあるやうに私共の大正九年と云ふ希望の木には色々な贈物が下つて居ります、何を我々のものによいやら、願くば皆自分のものにしたいと云ふ慾望がある事は、丁度小な子供が降誕祭の木や、正月の御馳走を一人で占領したいと思ふのに似て居ります然し若し其子が思ふ通り凡てを得たとするならば、彼は病氣になり、或は我儘となり、遊惰、放恣、我利の性質を養ふ事になります、其上眞當の喜は多勢の者と其季節を迎へ其賜物を分配するにあるから彼には此喜は味はれません。同樣に私共は色々な願を新年に對して抱いて居ります。世界萬物の富を持ち給ふ神は私共の欲しいと思ふ物凡てを與へ給ふ事は極容易い事に相違ありません。併我々の人格を高め人類の幸福を增進し、神の王國が地上に擴張される要素になるべきものであり、尚我々弱き者に相當する賜物でなければ與へ給はぬのでありませう。

或時二人の子供が父親と三越に行きました。父親は何でも欲しい物を買つてやると云ひましたので彼

等は嬉々としてあれもこれもと非常な望を以て大店に快歩しました。父は子供等が飛んでもない、身分不相應な虚榮を挑發する樣なものを買へと云ふと困ると思つて居ると七歳の少女は美しい品々を見廻はして、終にあれが欲しいと云ふて指したものは三十錢に足らぬゴムの彩色した毬であつたそうです。處が姉の方は物品の選擇に困つて、「お父さん、貴君が私によいと御思ひの物を何でも買つて下さい」と申しました。此二人の子供の願ひ方は私共が神樣に願ふ二樣を代表して居るではありませんか、何でも與へ樣と云はれる神に對し、極小さな自分の飾物一つ位を願ふ樣な事を目的として新年を迎へて居る者も多く御座いませう。少しく目を開いて吾々のあたりを見るならば、自分の家庭、學校、敎會又社會の眞の要求が如何程あるか分りません。婦人の地位や職業、敎育問題、結婚問題引いては國際問題に對し、神が如何樣な大きな要求でも入れ樣として居られる時に、僅かに自分の衣服の飾位の事を希望して居る事は何と小さな見地ではありませんか、併賢き女達は斯く色々な必要を見ますと何を求めてよいやら解らなくなつて、「神よ汝の善と見給ふ物を我に與へ給へ」と云ふ祈をなすに至りませう。

扨大正九年に女子靑年會は何を願ふかと世人に問はれるならば、何と答へてよいか、又神が斯く問ひ給ふ時に何と御願ひしてよいかを知りません。餘り澤山あつて何を先に、何を後にすべきかを迷ふて居ります。「汝等は求ふ處を知らず」との御言葉を神よりきく者も多いかと思ひます。羅馬書八ノ二十六に「我等は祈るべき所を知ざれども聖靈みづから言がたきの慨歎を以て我等の爲に祈ぬ」確かに求ふ處、祈る處を存じません。只靑年會としても又は個人としても神の授け給ふ事を感謝して受ける其心掛を準備するのが、我々の大務と思はれます。何故ならば或場合には悲しみの姿として、苦痛の形を取りて、最上の賜物が與へられるかも知れませず、或時は餘り豫想外の事柄で唯呆然たる事となるかも知れませ

ん、又我々の靈肉を喜ばせる形となつて祝福が降る事もありませう。故に神の善と思召すものを我に與へ給ひ、又是を感謝して受くる心を與へ給へと祈るのみであります。

去一年間を回顧すると、或人は美はしき家庭を造り、或は學校を卒業し、又は外國に遊學したり、子女が授かつたり、物質に於て豐かになつたり、色々な活動が出來たりした方々もあれば、其反對に愛する者に分れ、逆境に立ち、計畫の齟齬、事業の失敗他人の誤解に逢ふた場合の人もありませう。本會としても事業の進歩した事、會員、同情者又働き人を與へられた事、資金の與へられし事、幾分社會に奉仕なし得し事は一昨年に比して非常な進歩を表はして居ると同時に又一方には大切な働き人を失ひ、非難も受け、計畫の半ばも履行し得ず、信仰的ならざりし事や、働き人の精錬の不足な事、資金の不足故に事業の開始し得ざる事、不注意よりして他に迷惑を掛けた事色々あります。要するに神を愛する者には凡て事働きて益をなすとある樣に、我々の思考と働きが神中心とあれば、凡て不幸、不利であつたと思ふ事も必ず私共に働いて益をして居ます。万事がトン／＼柏子で行くならば、如何にして謙遜の德を學ぶ事が出來ませうか。若し凡てが此物質界の事のみの有無で量られるならば、私共に人格とか靈性とか奉仕とか愛とか云ふ精神界の値を悟に至りませうか。死別によつて永遠を教へられ、計畫の外れたによつて人智の淺い事を悟らせられ、過失によつて悔改むる心を與へらるゝ等、皆大きな賜物であります。來る年に於て神若し許し給はゞ、本會は外形上に於てもぜひ伸展たい。東京に於て王子小工業中心たる社會事業の爲、土地と會館の與へらるゝ事、横濱には近き將來に於て新築すべき其計畫の實施せられん爲、大阪は十五萬圓の會館建築費募集に效果を收むるやう、神戸は有職婦人の爲寄宿舍を設立し得るやう、本部は夏季修養會の地所を購入し得るやう、是等が事業外部の擴張の希望であります。內部

に對しては委員幹事會員が愈々團結して奉仕の實を擧ぐるやう、どの支部も其立場に於て昨年より以上の成績を擧ぐる樣會員と働き人との數いや增し、宗敎、敎育、社會の三界に大きな貢献をなし得る樣な賜物を祈ります。

先頭有名な壇ノ浦を通ました際に、如何にも山紫水明の美に打たれ、門司を前に控へた入江を恍惚として眺めて居りました。夏は水泳で此邊は混雜でせうと側の人に申したら「どうして、此處は非常に危險な處です、度々溺死者を出す處で殆んど人が來ません、舟もよく沈沒するのです。然し水面は常に鏡の如くであり、山に圍まれた入江であるから、嵐によつて大浪が打つ事もないそうですが、其下層に滔々とした潮流が流れ、然も其が水面と反對の方向に流れて居るから、人はおろか舟でさへ往々破舟すると云ふ事實を聞き、我々の愛する青年會の如き外は如何に平和に見え神の御心をなし發展しつゝある樣子であつても、其内部の精神上に濁流が正反對に流れて居るとしたら、個人や社會を殺すに至ると云ふ暗示を受けました。有名な印度の開拓者ケリー博士の臨終に友人を呼びとめ、「友よ我が無き後にケリー博士の名を稱ふるを止めてケリー博士の救主の名を宣傳せよ」と云はれた。かく吾等が自分の名とか自分の働の名譽などを中心とせず我救主我會の救主の名を榮めさせる事を最大の目的にすれば此暗流はなくなり、全部が神の方向に流れ込みます。爰に始めて外部と内部と美しい調和をなして眞の幸福と進步とを見出すのであります。」此心掛を以て、神の良しと思召す賜物を感謝してうけん事を大正九年の希望に致します。

消息（一）

○幹事宅移轉　本部の外國幹事ミス、ペーヂ、ミセスマクレーンは從來牛込區田町に住居せしが十二月小石川小日向臺町一丁目七十五新渡戶博士邸内に轉居したり電話小石川二八五〇番。

○岸文子氏　夫君母君及令妹園子氏と共に幹事宅にて晩餐を共にせられたり。同氏は十二月二十六日リバプール赴任の爲橫濱より出發せらる。

ひとあゆみ

わがゆくては暗けれど
見えわかぬ闇にしあらじ。
神よ、たゞゆくての一歩を、
しめしたまはゞわれは足りなん。

一歩づゝ、小さく卑しきわれの歩めば、
一歩ごと、ゆくての闇ぞはれゆく。
されば、かなたはよしいと暗くとも、
われたへて怖れじ。

幾たびかさしもに深く霧たちこむれば、
道にや迷はんと怖れつゝも、
少時忍びて待ちぬれば、
はやくも霧ははれわたる。

はるかの道をわれは見んとはせじ、
恵みの面紗のかゝれるなれば。
將來のゆくてを知りもせば、
現今の歩みを辛しとや思はん。

わがゆくてには荊棘生へる、
險しき道のありもせん、
そを知らば、恐れ惱みて、
わが心弱らざらんと誰かは知らむ。

わがゆくてには、花美しき、
坦らかの道のありもせん、
そを見なば、今日の旅路を、
おろそかにせざらんと誰か知るべき。

わがゆく道はいと短かく、
わが旅路は終近きを知りもせば、
さしもに疾きわが終を思ひて、
戰かざらんと誰かは知らむ。

わがゆく道の、いと遠く、
長きを知りもせば、我は嘆かん、
「わがはかなき力もて、
など終まで堪へ得べしや」と。

聖處の愛により、一歩ごと、
力を賜はるを知れれば、
わがゆく道をはからんとは、
我さらにねがはず。

かくしも、遙けき彼方は見で、
一歩づゝ、われは進む。
ゆくての唯一歩の光の、
つねにあたへらるゝを信じつゝ。

（M、M 譯）

着物と人

一會員

大阪の西野貞子女史の御話中に左の面白い事をきゝました。或時非常にこんだ電車の中に綺羅を盡した婦人の一團體が乘つて居りました。其中の一人他より高尚の風彩の一婦人が席の無きまゝに立つて釣革に縋つて居りますと其前に一人の貧弱な婦人が腫物で見苦しき頭をした子供を脊負ふて居りました。電車が進行中俄かに何かの故障で停止した爲、非常な動搖を起し子供を負つた婦人が後に倒れ掛りました。其處を彼の高雅な婦人が大急ぎで抱き止め、漸く倒れる事を止めたのであります。すると子供の汚ない頭が貴婦人の着物に障つた爲、白い汚點が着きましたのを見た他の婦人達は非常に驚き一齊に「着物を汚してまあ大變損をしなはつたなー」と云ひました。立つて居た婦人は此を非常に憤慨して、後に

人に語らるゝには何して今日の婦人界は物質的でせう、あの場合誰一人母と子供を抱き止めて轉ばさず負傷をさせなかつて、あゝ好かつたと云ふて呉れる者が無く、却つて着物に汚點が着いたとて損をしなはつたとは情ない心理狀態を暴露したのでしようと

此實話は今日確かに人一人を助けるより、着物に汚點の着く方を損と思つてる人が多勢ある事を表はして居ります。物價騰貴と云ひ、生活難の叫があると思へば、一方には其等は馬耳東風で、着物の如きドシ〳〵買ひ溜め飽く處を知らない有様で有ます。仄かに聞けば今日千圓位の丸帶を買ふ家族がドシドシ殖えて來た事であります。其に準じて最早縮緬は田舎臭い、錦紗縮緬でないと着られぬとか、其下着又は裾も同品でないと見苦しいとか、其下の長襦袢は何の品でなければ笑れるとか、半衿一つに十圓は普通等と云ふて居る若い婦人の非常に殖えた事を悲まねばなりません。美しい物を愛する事は至情であつて又趣味は養ふべきであります。然し外見のみの美を思ひ、飾る事を以て第一の事と思ふて居る人は大切な處に醜を表すものであります。人間の至善、至美と云ふものは克己、自制、獻身と云ふ處に表はれて來てるを呉々も忘れてはなりますまい。

近頃露國イルクーツクにあるミス、マシユー（前青年會幹事）の手紙に依ると去る十月中イルクーツクのみにても二十萬の避難者が群つて來、此冬子供や婦人を如何にしたらよいか考へるさへ戰慄すると云ふ手紙が來て居ります。お湯一杯が數ルーブルすると云ふ話は我々の考へ及ばぬ事であります。露國迄我々の考が及ばぬとしても我市、我村、我隣に苦しむ者が澤山あるではありませんか、又よき事業で援助せねばならぬ事が如何程ありませう。年の暮に救世軍の慈善鍋に一錢を惜しむ人は、大概衣服に成べく澤山の金をかける人達であります。然し又我々の喜ぶ事は教育ある、信仰ある若き姉妹等が僅かに他愛主義を習ひ、金錢物品を他に與ふる事を實行しつゝある事であります。過日九州に旅行した時福岡

女學校の青年會に何を話さうかと尋ねましたら、此クリスマスはシベリヤの子供の爲獻金したいから、其に就いて話して欲しいとの所望され、又長崎活水女學校の先生に門司で逢た際、同校もシベリヤにクリスマスの贈物をしたいから、さう云ふ事を知り度いと生徒が希望して居たと報知がありました。歸京するとウヰルミナ女學校から百圓の寄附があり、之をシベリヤの避難民に送つて欲しいとの事であります。又今日横濱の青年會員の山田しう子氏より本誌十月號に「改宗せし我傳道」を讀んで龜谷氏の爲に十五圓寄附がありました。以前も同氏の爲に富山縣岡山縣の會員から寄附のあつた事を思ひ合せますと確かに信仰ある姉妹方は衣食の奴隷にならず、見ざる人の爲喜んで獻金を出し又祈を捧げて居るのであります。何と云ふ勝利でありませう。「我等をして世に勝たしむるは我等の信なり」と聖書にありますが此土臺が無ければ如何しても華美な風俗に負け易く形式を脱する事が出來ません。

數年前の事を思ひ起しましたが、其は若き婦人が友人の葬儀に列する際紋服が無くて、持合せのものを纏ひました、すると他の友人達は立派な衣裳を着けました。それで、彼等が此婦人に、餘りそんな風では失禮かも知れぬと云ひましたら、彼の答に、「私は逝る友を滿足させる事が第一の喜で、會葬者の批判を遠慮するのではありません、借着や無い金を出して俄かに調へる着物等を逝ける友人の靈は喜んで呉れません、故に此小紋で如何な立派な式でも列します」と斷然申しました彼の若き婦人の立派な言葉を忘る事が出來ません。時々交際とか、色々の名の許に無理の買物を强られる如き事があつても、我々は其に超然たる精神を日々涵養し天に寶財を積む心掛が欲しいものであります。

生命は糧よりも優り、身體は衣よりも優れる者ならずやとの主の御教を年頭にあたり讀返し、緊張した生活を始め度う御座います。

パジエントの概括と其批判

よしみ
陶山

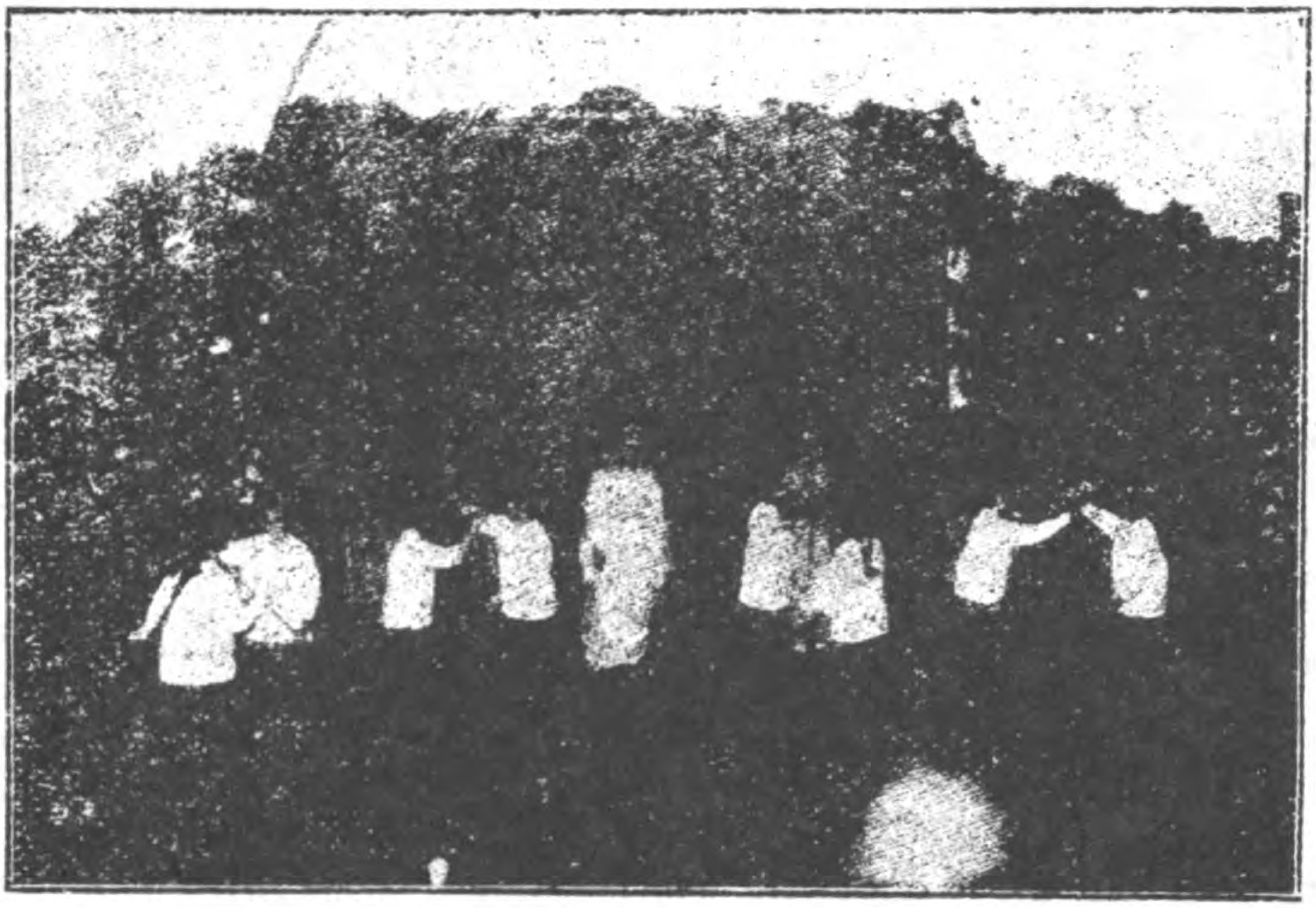
「パジエント」の語に初めて接し從つて其ものに對する理解の皆無である者は獨り私丈では無かつた筈だ。入場券が發行せられ目抜きの場所には神秘的なビラが下げられてから後、間もなく人々の會話の中にはパジエントと言ふ言葉が多く挿しはさまれる樣になつた、が此に對して充分精通し、これに解釋と説明とを加へ得るものは無いので皆奇異や懷疑や期待や思ひ〳〵に想像力を逞ふしたものであつた。

若しも入場券を援助と好意の下に買つたのでなかつたならば、それは全くパジエントと言ふ新しい名によつて生ずる好奇心が買つたか、さもなくば義務的に買はされたのである。實際未だ最小さい一群として市民全體にその精神とその價値とその仕事とその必要を充分に認められて居ない基督教女子青年會が果して入場者の期待より以上の滿足を與へる事は不可能であらう。或は人々の侮蔑通り浮薄な女學生等の不眞面な容姿を憶面も無く驅け出して人々の笑を買ふのみならず、無益な勞力を費して自らを傷けて行くのでは無かろうかと、勿論私は女子青年會と何等の關係を有つては居ないのだけれども、餘計な心配をし乍らそぼ降る雨を篠いで夜の部を拜見に出かけた。そして觀た、觀て驚いた。

先づ仄暗い入口に群がる人々を觀て其雜踏に驚き中へ這入つて更に多數の人々が既に場内に溢れて居るのを觀て再た驚いた。ほんとに思ひ掛けない盛況である、こゝに於て私の餘計な心配はほんとに餘計

なものであつた。――侮蔑心は會員諸姉の生眞面目

パジエント



體操　中央に立てるは青年會の精

に喜悦の表情と觀衆の眞執な顏付に恥ぢおびえて知らず／＼に逃げ失せた。

やがて場内の燈火半滅せられ今夕のヒロインとも言ふべき女子青年會の精を先頭に内外人二百有餘の少女が各々扮裝してオーケストラの糸に引かれてくる幻の樣に靜かな歩調を保つて登場し、合唱體は定の席に、少女の二列縱隊は精に一禮し乍ら左右の控所に收まつた。舞臺には精が四人の從者を控へて立つて居る。此所に人々が樣々の心を以て待ちあぐんだ所謂パジエントは青年會の精神と仕事の大體を廣く社會に說明せんが爲に起つた斯くも多數の少女等の純なたましいによつて將に詳に語り出されんとして居る。左に其大概を書てみよう。

第一部　湖畔の夏期修養會の一部を表はすもの、舞臺中央には會の精が立つてゐる、學生の一團凉しげな服裝にて左右より登場、全集團入るに從つてなだらかに會の精を中に立つ快活に如何にも喜びに滿ちてゐる樣子動作に現はる會歌をうたふ。元氣よく足拍子手拍子或はラケットボール書物にて拍子を取りながら、夕の祈禱を知らせる鐘と共に（ピアノにて）

一同座す、會の精は聲高らかに「お聞きなさい夕の鐘は響いて皆樣を晩の禮拜に招き遊戯や勉强を止めて未來を望む豫言の聲に耳を傾けよと告げてゐる、研學と友情の懷しい學校生活に歸つて行く方々！貴女方は此處で得たものを確かり握つてゐて下さい貴女の理想に忠實だつた爲に學校を純化する迄に或方々は進んで奉仕する爲教會で傳道に從ふでせう貴女方の本分が神の國の事業に有るのを悟つて、或方々は女子青年會の需めに應じて都市の少女達に會の使命を盡すでせう、猶多の人々は「キリストを隅の首石」とする家庭を作ることでせう、險しき人生の行く途は如何であろうとも此修養所で捉へた目的を確かり握つてゐて下さい」(此時學生起立す)「汝等受けし如く互に人に與ふべし」と云ひつゝ會の精が未來を現はして右方を指す、ピアノ晩禱を奏す學生等精の言葉に深く感動せる樣にて退場。會の精獨り殘り心待ち顏に左方を望む時次の場面となる。

第二部　田園に於ける女子青年會の場面、田舍の收穫祭、ピアノ奏樂、左右より田舍娘登場、或は派手な衣裳を着け或は手拭を被り或は花籠果物籠野菜の束、稻穗等手に持つ。會の精乙女等を招く、一同精を中心に半圓を作り、果實や花を捧げ收穫の歌を歌ひ退場す。

第三部　都市に於ける女子青年會(五部に分つ)會の精右方に立ち合唱隊の唱ふ歌に聽き入りつゝ中央に來る。其一有職者の部、看護婦、電話交換手、女工女給仕を代表する四種の一團體登場。反對の側より奧樣令孃と別に女學生團登場、之等の登場者は逍遙しつゝ然も三種の女子混ぜずして精の方へ來る。精は「皆さんは社會の階級制度に捉らはれて別々に離れて私を求めてゐます、姉妹方皆さんは神の御經綸の中にあつては皆一つなのを御存じなくて一致團結の力なく友人同志姉妹同志の心なしにその樣に離れ〳〵に立つて居られるのですか」と云ふ時に、ブラウニングの詩にある女工のピッパ白の服裝にて茶色のスカートに前掛をし唱ひつゝ聽衆をわけて登場

す、會の精ピッパをよびとめて云ふ「小さい姉妹ピッパ、婦人の世界の一變した此時代まで各時代をさすらつてゐる貴女は國は違つてゐるけれど貴女の姉妹なる此人々にピッパよ何といひますか」と問へばピッパ云ふ「昨日も今日も明日も同じ事あらゆる勸めは神の御前には同じ事、人はいづれも神の聖旨のまゝにのみ働くことが出來ます、一番優れてる者も一番拙いものも皆私共は神の御手の器、誰が一番といふこともなければ最後と云ふ事もありませんと再びピッパ歌ひつゝ退場。此をきゝし女子の群は俄にうちとけて入り混り互に手をつらね環を作つて、一致團結の歌を唱ひつゝ二人づゝ手を取り合つて退場す。

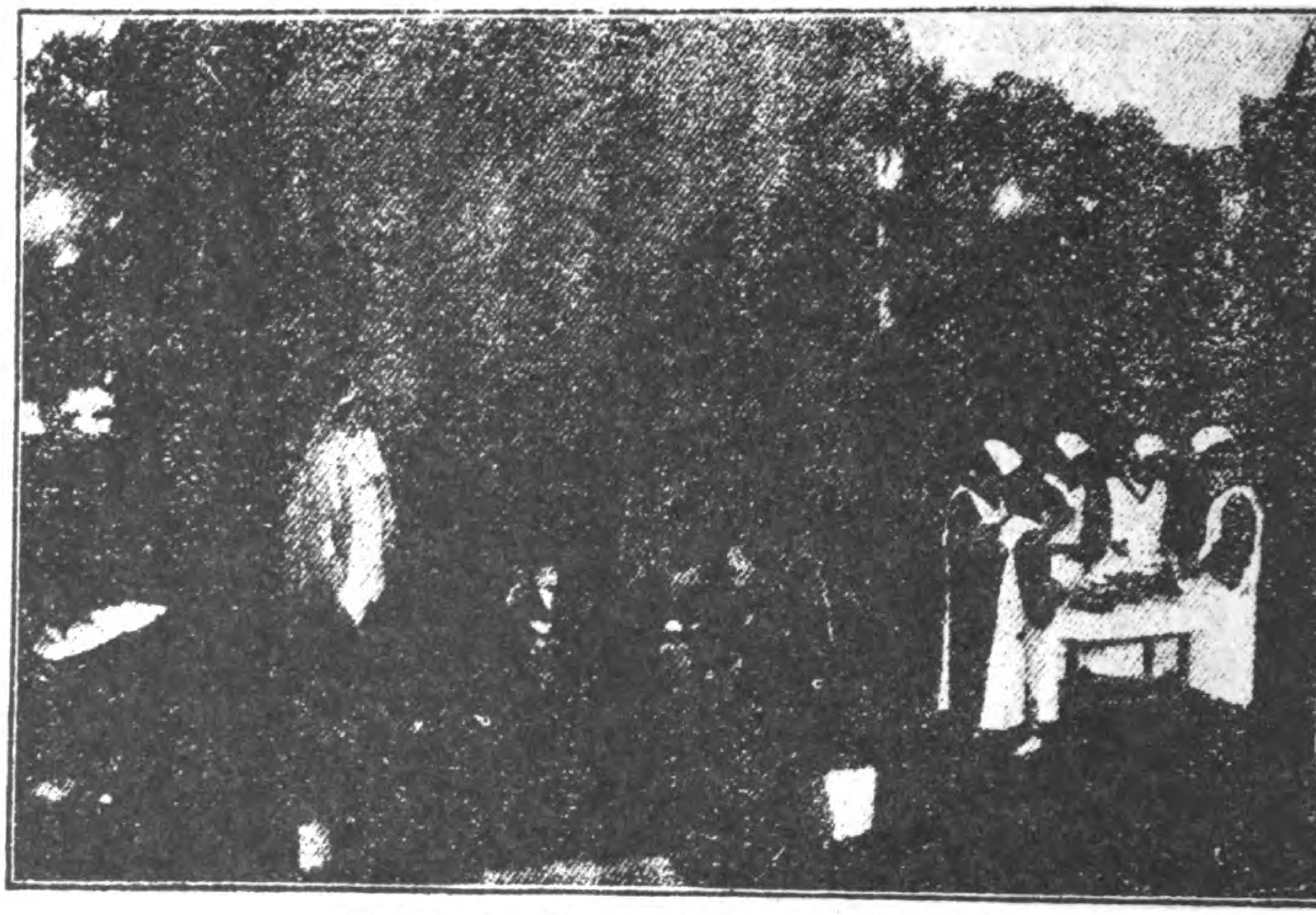
次は體育の部　精、退場し行く女子等を見送りつゝ云ふ「彼の人達は一致團結と云ふことをあらゆる勸めは神の御前にひとしいことを學んだ。今度はあの人達の樂しみから毒をとらう。卽ち長く忘られてゐた單純な心からの遊戯を彼の人達に敎へて健康の使者として彼の人達を世に遣はさうといひつゝ手近の木から枝を折つて遊戯の靈をよぶ。遊戯の靈ふくよかな黄色の服裝にて輕快な足取りにて美しく飛びなから出て來る、精、靈に枝を與へ乍ら云ふ、あらゆる成長するものゝ表徵よ、汝はあらゆる國の女子を導いて力により、榮光より榮光に、力と成長と歡びとを持つて來る」。此時ピアノにつれ、遊戯の靈枝を振つてさし招けば、體操服を着せる八人の少女元氣よく登場一絲亂れぬあざやかな體操をなしつゝ左右に退場。（十頁の寫眞は此なり）

其三敎育の部　花瓶と花を持つた少女、活花の敎師登場し互に挨拶して花を活け始む、料理服の女子はテーブルによつて料理を、裁縫をする女子、敎師も定めの席に着く、働について歌へる樂しきうたを唱ひながら一同仕事を終り花、菓子着物等を高く揭げて會の精に示しつゝ退場。

其四市街部　庭あり低き垣根閉ぢたる門、ピアノ奏樂につれて重荷を背負へる娘、納豆屋、守つ子、新

聞賣等の子供登場、如何にもつまらなさそうにものかげに垣をのぞく者、座す者それぐの姿勢をとる

パジエント



教育部　料理裁縫活花

精、左手をかざして誰かを呼べば、女學生等數人垣根越に子供等を見、悲しく途方に暮れた表情にて門から入る、慰めても子供等とりあはず女學生はがつかりして門あけて彼方をさし招くと蝶の翼の小さな華かな仙女が三人出て子供に祝福を與へ、子供等の重い荷物をとり、着物を着換へさせたり、手製の菓子、果物を與へる、一同滿足の體にて手を連ねて樂しく舞踏しつゝ退場。（表紙の寫眞參照）

其五聖書の組　合唱隊が傳道の歌を唱ふ中に、繪樣帶に描寫されをる豫言者に扮せる十九人の女子登場樣々の姿勢にて精を中央に半圓に立つ、ローマ、ギリシヤ、スリカの初代諸教會を代表する二十八人の婦人登場し各クリスマスの花環を携へ「靜けき此夜」を歌つて、舊約より新約の推移を示す、歌ひ終つて花環を高くかざすと豫言者の群彼等を見る、婦人等は主基督のいや擴がり行く感化をうたへる歌を唱ふ終ると精が進み出て語る。

此事の後主、他の七十人をあげて自ら往かんとする處々へ、已に先立ち二人づゝを遣はさんと云ひ給

ふ。「往け、視よ、いづれ町に入るとも人々汝等を受けなば神の國は汝等に近づけり」といへ。汝等に聞く者は我に聽くなり」。婦人退場。

第四部　世界に於ける女子青年會、ピアノ（ダンホイゼルの巡禮の曲を奏す）精舞臺の稍左方に立つ。初代教會の婦人に次いで百餘の少女登場、幾分歴史的順序に並ぶ。合唱が終る頃、會の精中央に立ち一同に向つて云ふ。「天と地とになる諸族の名の起る處の父と我等の主イエスキリストの名によりて我汝等に命ず、汝等此の務めを受けたれば愛をもて相列なれ、人は一つ體に多くの肢あれ共凡ての肢其働きを同じうせぬ如く、我等も多くあれどキリストにありて一の體にして各人互に肢たるなり、我等が持てる贈物は各々與へられし恩惠によりて異なる。共に來て信仰を新になさい。」一同聖歌を歌ひつゝ精より各自小き蠟燭に光りを與へられ歡びと滿足に行列退場

（終り）

どの場面を見ても眞面目と熱心があふれて居つて心地よかつた。此偉大な結果が其賜物でなくて何だらう。一人々々が自分の青年會と言ふ氣分を以て努力して居る所に、缺點等は探す氣になれない床しさがあつた。入場券の最高二圓は安いと思つた。青年會援助の爲の寄附と而して其新しい立派な試みに對する相當の謝禮で、もつと高價に報いてもよい氣がした。少なくも完成せしめるまでには多大な努力と犧牲が拂はれる。然も女子青年會が其外見に數倍した大きな仕事を完全に成し遂げた事に大きな滿足と尊敬を捧げたい。パジエントは今後益々宣傳されて行くに定つて居る。今回行き得なかつた人、行かなかつた人が今更殘念がつて居た。それが行つて觀た者が行き得た事を誇る樣にその大々的新趣向を説明して反抗的にもけなし得るものがないからだ。もつと大きな熱心ともつと女らしい眞面目で何回でも此が女子青年會の占有物となるまで開催してもよいものだと思つた。

パジエントを觀て

其一

佐々城佑

あの晩、初から終まで會場を支配してゐた空氣は眞摯と敬虔に緊張したものでした。通常の音樂會のやうなつもりで來た人には、其森嚴さは寧ろ重すぎた程でしたらう。その筈です、出演者の凡てが純な學生であるだけに、そして其の題材が貴い性質のものであるだけに、宗教的氣分に張つめてゐましたから、受けた强い深い感動は拍手さへも鈍らしましたこれは多くの人も同感だつたでせう。

第二部の田舍娘はあの晩の全體の調子に輕快な明る味を添へた唯一のものでした。然しその內にも涙を誘ふやうな隱れた奉仕を見せられました。

曾てからいふ諷刺畫を見ました。男の要求する女といふやうな題でしたらう、結婚前を表はした一方の畫は華かな廣間で音樂を奏してゐる女です。結婚後のは何十本といふ手が肩から出て、それが一々裁縫なり、料理なり、掃除なり凡ゆる仕事をしてゐるのです。

パジエントで受けた感じは女が此等の事を凡てして、尙ほそれ以上に貴い使命をも果して、然かも其報酬を何等要求してゐない處に云ひしれぬ尊敬の念に打たれた事です。少し許の食料を稼いで絕對の權利者なるかの如くに振舞ふ男にとつて、あの表示は確に反省を促します、慚愧の汗を流させます。

觀客の一人として滿足以上の滿足を得ました。たゞ若し望めるなら、用語が日本語であつて欲しかつたと思ふのです。

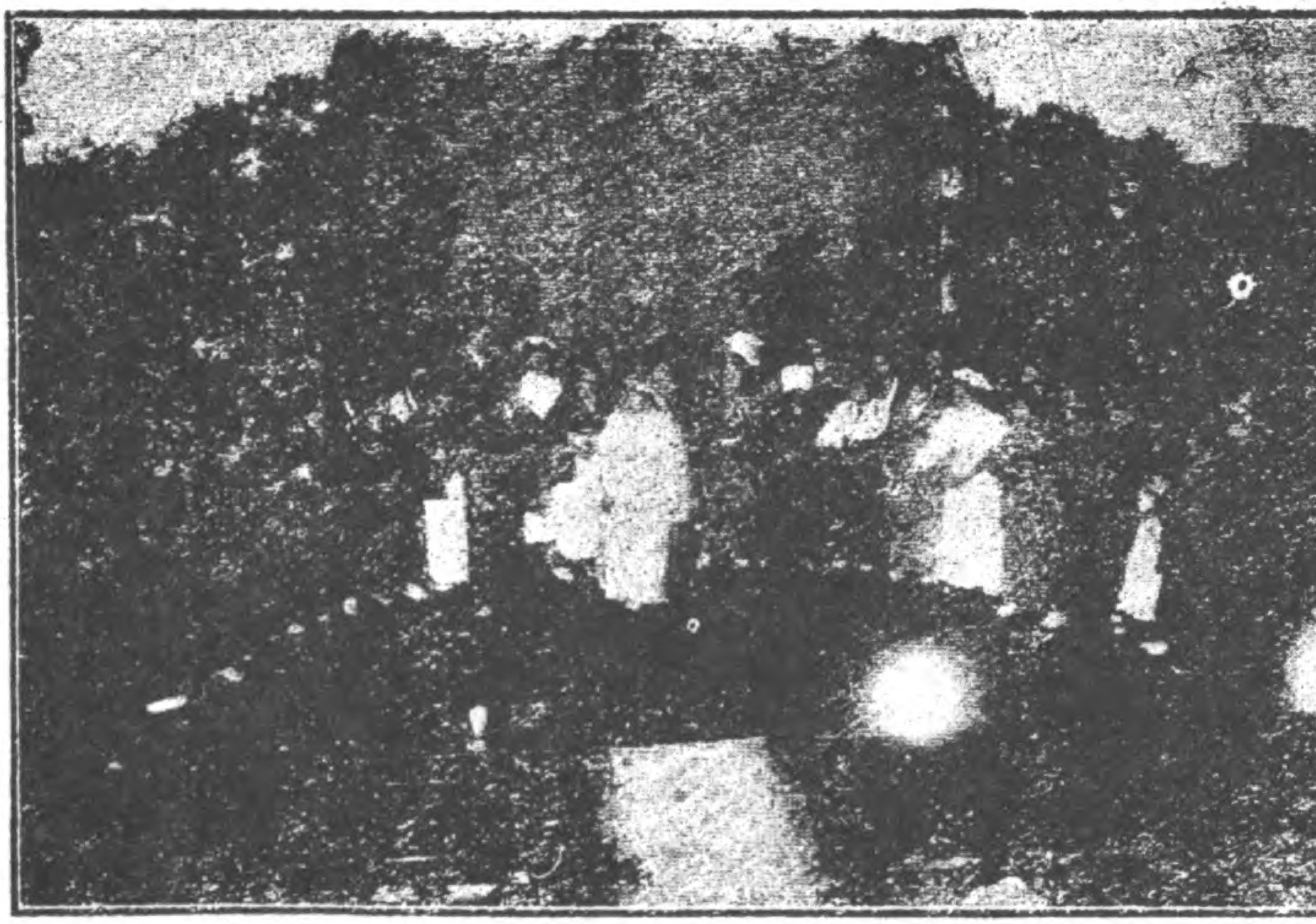
其二

共立女學校　銀鈴

それは眞に有意義に充實したものでございました

美しい嚴肅な各場面々々に於てのあれ程多數の人々

パジエント



有職者婦人と家庭婦人

が一絲も亂れぬ調和した氣分と熱心さとは全く見る人をして感ぜしめずにはおきませんでした。殊に最後で會の精のかかぐる一本の把火の灯からあたへられた二百餘の光もて闇を分けて歩み行く。光りなる一つみ神のみ心に基づいた會の精神をその崇高な光景のうちに明らかにさとり得て溢るゝ喜びを禁じ得ませんでした。出演者のゆるやかな足取りの一蹈み〳〵をもしつくりと調和し觀客の心を恍惚と醉はしめた音樂の妙な響きには今更ながらその價値を思はせられました。各々異なれる諸階級の者が皆神のみもとに一致團結して平安と歡喜のうちに自己を生かし行くといふ此の趣意は最も時代に適合したものであつたと思ひます。青年會の精神的な各方面にわたる働きを具體化して世間の人に示した此の度のもよほしは全く何も知らぬ人々の胸にも強い印象をもて刻み込まれ一層女子青年會といふものが世人にみとめられたことゝ信じます。眞實に横濱の女學生よりなれる初めての試みとして、左程の練習もせずして素人の若き姉妹を悉く緊張した態度で、出演させたのは又委員幹事等の努力にあることゝ同時に神の御

旨を基としたによると信じます。

其三

ミス、ペイン

今回のパジエントに日本の方々と一緒に外國の者も交つて演ずる事が出來たのを嬉しく思ひました。特に横濱の樣な外國人の多く居る處では、成べく日本人と一緒に事をするのが兩方の友情を増す近道であります。私もあの中に入つて大變よい事を學びました、特別感じた事は、日本の方々が如何にも落付いて自分の爲すべき事をキチン／＼と演つて居られた事です、米國でも色々のパジエントや演劇の時に交つた事もありますが、斯る時には眞個の專門家が來て練習したり支度して呉ますけれども皆の騒ぐ事周章る事は御話になりません。故に今度日本の姉妹方が少も周章ず靜かに支度をして、悠々と舞臺に出た事等大變感じました。私の從妹が又フエーリーの年長を勤めましたが、あの子はつい近頃日本に來た許りで日本語も出來ません。家に歸つて云ふのに日本の人は何んて深切でせう、私が寒くて慄へて居たらグン／＼私を押す少女があるので、何故かと思ふと室の隅に暖房器があるから其處へ行つて温まれと云ふ意味で一生懸命に世話して呉れました。若し米國で大きなパジエントを私共計でした其中へ唯一人日本の子供が交つて居たらこんなにして上げるか知らと話しました。斯う云ふ風に私共二人でも大變好い印象を受け又斯る事が度々あつて欲しいと思ひました。

パジエントに就いて多くの感想を御寄せ下さいましたが餘白が御座いませんので殘念乍ら右三氏の文を載せる事に致しました譯ですから其邊惡からず御寛恕願ひます。

クリスマス祝會の魁

十二月十六日夕東京青年會樓上の一室に東京市部及本部委員職員一同のクリスマス祝會を兼ねた懇談晩餐會が催されました。時に應じて變裝自在な此部屋は其夜常磐木の色と室内に漲る靜さ淸さとでクリスマスの夜らしい心地を起させる室となつて居りました。一同が食卓につきましたのは定刻を過る三十分、六時頃であつたかと思ひます、格好よく配置された五個の食卓は各々青年會の五ッの働を代表して居て、中央に据えられた本部の丸テーブルから初まり、其左は學生部右は社會奉仕部、背後に並べられた二つの中一は敎育部、他は市部といふやうになつて居りました。そして其食卓にはそれ〴〵主任幹事が控へて居られ共に其テーブルを圍む人々に働の模樣を御話下さるといふ趣向になつて居ります。

最初私が自分の名を見出しましたのは社會奉仕部のテーブルの上でございました。殊にお隣には旅行者の友の林ふさ子氏、前には巡回産婆看護婦會主任田丸米子氏が居られましたので、社會問題、婦人勞働問題の喧ましい今日、豐富な御實驗の倉庫から出る、お二方の御話を伺ひ、之等の問題に關して机の上では得られぬ暗示を食卓の上で戴く事が出來ました。よい思ひつきではムいませんかコースの變る毎に食卓を變へて參る事によつて、一同が青年會の諸方面の働に觸れる事が出來るやうに仕組んでございます。そして其選擇は自由に任されて居りましたので私は第二に市部のテーブルへお邪魔致しました。戴きかけのパンと、スプーン、フォーク等第一の食卓で所有權を與へられた自分の財産を持參して、第三番目には敎育部のテーブルへ伺ひました。お茶の時には學生部のテーブルに、そしてそれで青年會の市の働の全部について、よりよき理解を得やうと心組んで居りましたが、第三の食卓で偶然隣の席につかれた聖書の組をお受持の原田愛子氏と宗敎談、信仰談に花が咲き、食事が全く終りました時にもまだ同じ所に自分を滯らせて居りました。

其夜廣からぬ此の部屋は、斯く東京市部の働の各

方面と本部の事業とを食事の團欒中に紹介する、大きな内容を含んだ然し外見は小い舞臺となつて居たのでございます。

食後テーブルが取除けられますと其處は忽然氣持よい集會室となり、一同爐の前に圓形を造りました佐藤隆子氏の司會で第二部が開かれ讃美歌の後加藤幹事の興味深き報告と將來に對する大抱負とを伺ひました。東京青年會の發展は會館建設後五年目の今日既に其狹隘を痛切に感じ、電話の增設を希望して居らるゝ事によつても明である通り、目醒しいものでございますが、殊に今年に於て開かれました傳道集會で百六十三名の求道者決心者を與へられた事は、會の働の上に新しい勇氣と光明と又感謝とをもたらす事實ではございませんか、此收穫は今年中得ました最上のものであるとは一同の感でありませう之に對して涙ぐましい感謝の思ひと之等の姉妹達の靈性が健全に發達せられん事を、との切なる祈願との湧き出るを禁じ得ませんでした。

次でミス、アダムスのお話がござい致した。其主意は「クリスマスが私共にもたらす教訓の最大なるもの丶一つは一致といふ事であつてキリストの受肉降誕により神と人、人と人との隔の垣が取去られ、其間に完全な連鎖が與へられた、それによつて人は皆神の子たり得ると同時に相互に同胞である」といふ事にあつたやうでございます。河井先生が通譯の勞を取られました。

河井先生がなさいました本部に就ての報告は突然の爲と時間の切迫との爲に簡單なものではございましたが、其中に感謝すべき一事と、會の働に大なる暗示を與へる御言葉とがございました。熱海線に沿ふた冬は暖く夏は涼しい海岸に、修養會常設會場として適當な地所の見出されました事は感謝すべき一事でございます。之は來るべき年の中に購入の運びに至らせ度き願を一同に起させました。御報告の終りに先生が御附け加へになりました御言葉を私は以下の樣に解釋いたしました。

「青年會の働の凡に貫通して居る所の一つの流がある、そして私共の働は皆此流を汲み、此源から發足してなされなければならぬ、深い水源を有する噴水が自然に高く吹き出づる樣に、私共の働が深い源に歸る時に、其所から出る活動は如何なる障害も止め得ぬ力に充されるものであり、決して枯渇せぬ生命を有して實を結ぶに至るは當然である。活動の水源、それは申すまでもなく神との交り即祈禱でなければならぬ、此所に凡の機關を圓滑に運轉せしむる油の斷えざる供給がある。立上る前に跪く事、之が勝利の秘訣である事を記憶せねばならぬ。」

先生は右の事を、矯風會が本年の大會に於て與へられた一大覺醒とそれに伴ふ新なる感激、そして其結果として成立した祈禱團の例を引いて御話下さいました。三四名の祈禱の後頌榮を歌ひ一同感謝と希望とを以て散會いたしました出席者四十名餘。（淺井）

○井上友子氏、中央委員にして昨夏米國にて、女醫大會に列席されし同氏は十二月二十二日歸朝さる。

新嘉坡よりの來書

拜啓初秋之候と相成り候處御會には益々御發展にて道の爲同胞の爲御盡し下され候事蔭乍ら難有き事に存じ居り候。懷しき故國を離れ變化なき常夏の國に來りて淋しく住居致し候うちにも主に選ばれし私共は心を同じく致し婦人會を起し何かよき働をなさんと希望を以て暮し居り候。然し創立日猶淺く會員も僅かにて格別の事も出來申さず殘念に存し候、然る處當地在留姉妹の狀態は六七名の上流婦人間の互に交際せらるゝ外には組織立ちたる會合も之無く宗敎的、精神的修養向上の刺戟無く其機會も乏しく一方には故國にあると事變り、社會的慰安を必要と致し候も孤獨に暮し居り候爲其樂しみも得られ申さず各自の不幸は申すに及ばず日本國家としても海外發展上の障害にも相成歎はしき次第に候間、何卒成べく廣き範圍に於て在留婦人を網羅したる會を組織し修養と慰安の兩方面に成效致し度存じ候も、微力に

て如何とも致し難く悲しみ居り候、就いては御會の御助力を仰ぎても初志を貫き度く存じ候、其方法として河井道子先生の御來新を願ひ御視察を兼ね、當地婦人界の精神的覺醒の爲に御盡力を願ひ、旁々我會の發展にも御助勢を賜はり度候、何卒私共の志を御賛成被下候當地御滯在一ケ月位の御豫定にて河井先生を御派遣下され候はゞ在留婦人の幸福これに過ずと存候。先生御渡航被下候に付いては往復御旅費及當地御宿泊は私共にて支辨致すべく猶御禮も致し度候へども微力にて其意に任せず不惡思召被下度候。御多忙中殊に三千哩外の熱帶地迄誠に恐入り候へども是非とも御出で願ひ上度候。何月頃御都合御よろしく御座候や御返事給はり度候。

大正八年九月　新嘉坡日本基督教會婦人會

梅森　幾美、渡邊ふゆ子、魚住よう子、山崎　久子、城　野　幸、村川　香代、佐藤　うめ

日本基督教女子青年會御中

右婦人會の方々は東京、山口、横濱共立女學校、第二府立高女、鹿兒島、女子大學、遺愛女學校等の出身者なり。

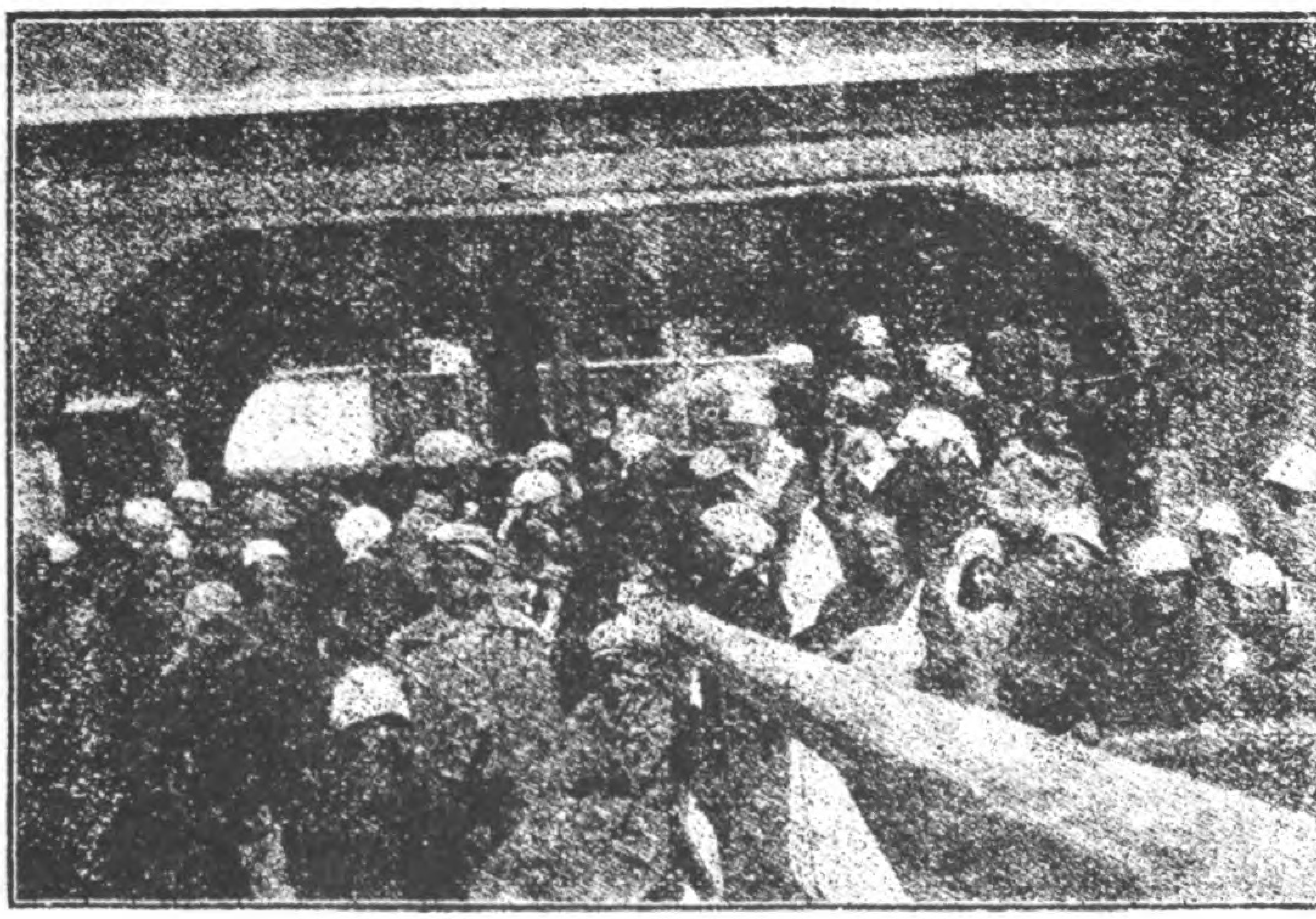
シベリヤ音信

マシュー

私共の新調の正服姿を御覽下さい。日本で造へたあの奇怪な服は役に立たなくなつて、或者は股引に造り直しましたが其他は如何なりましたか存じません、今度米國紐育から眞當の正服が參りました。又素的な外套を製へました、然も赤十字のでなく、我々のを、其は小馴鹿毛革製で御座りますから、丸でサンタクロースの樣です。

昨年は此所に非常な缺乏があつた事を知りましたが、今年は實に大したもので御座います。二十萬以上の避難民が西部地方から參りました。彼等の多くはよい階級の人々で金も持ち、可成立派な風彩もして居りますが、オムスク政府の覆へつたので避難中です。然し其撤去狀態が餘り酷いのでチブスが至る處に發生し、兵士と共に富者も貧者も一樣に苦んで居ります。米國赤十字は戰線の前線及後線の近くに

い、救護所を開始せんとして居ります。勿論人々は行く場所がありません、此イルクック市が既に一パイで如何ともする事が出來ませんので、食物否お湯でさ



ペトログラドより浦汐に避難せし千人の孤兒

へ給するのに非常な困難があります。彼等は劇場、活動寫眞館、廉賣場、車庫或は貨車と云ふ風に入る事の出來る中には何でも構はず住んで居ります。そして此等の場所には臺所が御座いません、何百と云ふ人の住んで居る一泊所を發見しましたが、彼等は茶瓶一パイのお湯に三ルーブルを拂はねばなりません、勿論私共は出來る丈大きな茶瓶を持つて居ります。目下新中央部なりイルクーックに來りマンチユリア方面から來る避難者の爲にも働いて居ります斯く遠く居りましても日本女子青年會の事を忘れ難く、心は屢々日本の空に通ふて居ります。隣國とは云へ此遠いシベリアの中央部にあります今日の此悲慘の狀態に對し日本の姉妹方が同情を續け、世界人類相提携して御國の來る事を祈り、且つ其が爲働いて頂きたく思ひます。よいクリスマスと新年を迎へられん事を祈りつゝ。大正八年十月。

ウキルミナ女學校よりの寄附金を以て毛糸、編針、風船、雜記帳、繪端書及キャラメル等を大行李に詰め十二月二十二日シベリヤ避難の子供にクリスマス賜として發送しました。

夏期修養會地所に就いて

毎夏修養會の時に團體より或は個人よりして、將來の修養會敷地建築費なりとて同情をこめたる寄附金のある毎に、委員は痛切に地所の與へられん事を感じ居たり。特別敷地選定委員指定されしを以て同委員は房州に二回、東海道線に二回及多くの聞合をなし、終に適當なる地所を見出すを得たり、依て十二月十三日の中央委員會に報告をなし、本會の顧問なる辯護士普賢寺徹吉氏に依頼して親しく調査を遂げ購入の手續をなす事に決定せり。場所は小田原より熱海に至る途にて前に相模海を控へあたりは一面蜜柑畑にして土地には數十軒の漁村より成立ちたる一小村なり。凡て人情風俗質朴にして修養會如きには最上の土地なりと思はる。大正九年の末迄には熱海鐵道落成せん由なれば此候補地に達するに東京驛より約三時間を要するのみ、夏は海水浴に適し冬は蜜柑を友として避寒を樂しむべく、南東は海に面し背後に山を負ひ、春夏秋冬趣を異にしたる仙境と云ふべし。幸此土地の與へらるゝ事あらば日本全國の青年會員及本會の友人達に開放し、十分に利用さるゝ事ならんと信じて疑はず。然れども其購入資金と云ふべきものは前述の姉妹達よりの寄附金僅に數十圓に滿ざれば之より公衆一般に訴へ寄附金を仰がんとする場合なれば、購讀者中是に對し多少に拘はらず御助勢なし被下方あらば委員達は幸甚なり。成べく多勢の人々よりの寄附にて此處を得ん事を志望し居れば、一人にて一坪、或は數坪、又は數人にて一坪と云ふやうに寄附あらん事を切望して不止。土地調査の上愈々本會にて購入する場合には新たに價額、地勢等を本誌に掲示し諸氏の御同情を請ふなるべし。

消息 (二)

○宗像正子氏　十一月二十四日女子御分娩和子と名命せられ母子共に健全なるを喜ぶ。

○安達富美氏　以前名古屋金城女學校及ドノ關梅光女學院の教師たりし同氏は十一月十五日加藤冬作氏と結婚せらる。東京九段下一ノ七に住居。

九州天草のぞき

河井道子

大正九年を迎へる前に關西九州にある女子青年會の市部學生部及數個の教會を一度訪問せん事を期して出立したのは十一月の中旬であつた。大阪では個人訪問を主とし、數回の會合を催したに過ぎなかつた。勞働問題の喧しい土地とは云へ、異口同音に女中拂底を語り又會館に女中が無いので、或日の如きは幹事一人と共に臺所から客間全部を拭き掃除をしたのも實際問題に觸れた感があつた。同會は十五萬圓の建築費募集を開始せんとする矢先で、幹事委員の努力と熱心と期待とは敬服に餘りある。其が爲種々の協議を爲し是非とも成功させたい希望で訪問をした。未だ會員が三百に滿たない會であり乍ら、公會堂を借り受けて、地味な傳道集會が十一月廿二日に催された宗教部委員の勇氣には敬服の外はない當日は西野貞子氏「大阪婦人に告ぐ」ミス、アダムス「萬國基督教女子青年會と婦人問題」について「婦人問題解決法」と云ふ講話をなして會を閉ぢた。幸ひ梅花女學校、プール女學校、ウヰルミナ女學校の諸生徒等の合唱があつて會を賑はされたのは感謝であつた。來會者は五百人以上であつた事は會員の努力の十分の表現である　同會の經營する寄宿舍は十二名で滿員であるが、適當なる舍母を得て極家庭的である。一夕手製のおすしと名物の饂飩の御馳走に預つたが舍生一同の和々しい顏を見て、斯る場所のあるを喜ばずには居られなかつた。

關西婦人聯合大會

廿四日の關西婦人聯合大會が大阪朝日新聞社樓上で開かれたのに出席した。是は新聞社の主催で名古屋より九州間にある各婦人會の代表者二百六名共處に招かれた理である。梅花女學校第一回卒業生なる

山岡春子夫人が座長に推され、順序書に從つて議事を進ませた、色々の評はあるが兎も角も斯く多方面の婦人會を代表した者が一堂に集り、意見を遠慮無く發表する迄になつた事は婦人界の慶事である。先づ左の「申合」が會合の目的と看做すべきである。

一、見聞を廣くし思想の向上を計る。
一、社會の一員として靈智體を練り强き信念と活動力を養ふ。
一、在來の陋習を斥け生活の改造に力を盡す。

よく現代の思想的習慣を代表した發表と思はれた。同志社の松田道子女史は日本婦人の思想涵養につき矯風會の林歌子氏は信念と日常生活につき、神戸女學院安田靖子女史は男女教員の待遇平等につき、神戸渡邊百子女史は男女の人格及協力につき其他一二名の婦人等が今日の陋習打破につき滔々と述べた事は慥かに婦人達の新面目を表はした。此場合我々信徒の立場よりして公衆に訴へるのも適當であらうと思ふ。自分は主義の爲逆境に陷つた婦人擁護に付二三分語り出でた、即ち若し教員、事務員、主婦、女中、何の階級でも女が正義の爲に其位置を失ひ、或は汚名を被る如き時は婦人界が一大輿論を起し、此等の者を擁護して彼等の物質的及精神上の助を與へ得ん爲協力せん事を願つたのである。後に一婦人が近より涙を流し「よく此事を云ふて下さつた、平素犇々と感じて居た事で思はず落涙した」とて名刺をと請れたが、兎も角も此事を痛切に感ずる人の一人でもあるを知り勇氣を與へられた。其うち結構なる御辨當が渡され新聞社よりの叮嚀なる挨拶や待遇を受け、屋上にて撮影し、機械室を一覽して後自動車で公會堂に送られた。一時の開會と云ふに最早十二時から滿員の盛況である。五千人以上の婦人の集つた其光景は美事であつた。當日は平塚明子、竹中繁子、塚本はま子、山田わか子女史等の講演があり其後久野久子氏の獨奏と云ふが上、然も朝日新聞が何日間も大々的に廣告した事であつたから我も〳〵と此處に集つたのは當然であらう。開會の辭の後、山陽高等女學校長の上代淑子先生が發起人を代

表して午前中にあつた會議の大體を報告になつたが老練な先生の柔しき音聲が一言一句よくひゞいた。其後平塚女史が割る丶如き拍子に迎へられて壇上に現はれたが音聲低くして一句も聞えない、其處で男子が女史の講演を代讀された。其の後は如何であつたか下關行の時間が迫り退席した。我田引水の嫌ひはあるが、當日午前午後の辯士或は討議者中頭角を現はしたのは、やはり基督者婦人であつた樣に思はれた。此も誇るべきでなく却て然るべきが當然の事である。着想と云ひ實行と云ひ世の爲人の爲神中心の向上を敎へられて居るは信者であるから、信仰の上下に拘らず思想丈は必ず豐富に相違無い。

梅花女學院

廿五日朝下關につき、梅光女學院の講堂に於て同校女子青年會の發會式に出席した。大正七年神戸女學院に修養會を催した際、弘中つね子氏が梅光女學院に青年會を置くから發會の時には是非來よと招待されしが、一年餘も訪問の出來なかつた事を濟ぬ心地がした。此日は終日を發會式に當てられたものと見へ、午前は發會式にし、午後は講演會とされ、夜は親睦會と割り當てられてあつた。午前の集りに於て敎員代表者、敎會代表者、婦人會代表者、同窓會代表者等より優渥なる同情深き祝辭のあつたのは實に美くしいことである。これ迄一學校內に青年會の生れた時、斯く學校、敎會、同窓會等が相助けて此を祝した事を耳にして居らないが故尙更嬉しかつた又會員、役員一同の協同的精神の滿ち〳〵たる氣分は感ぜずに居られない。例へば若き會員が手料理をなして敎師と青年會の役員及委員等即ち五年生を招いてもてなした如き、此美しい精神を他校にも與へられたい感じがする。丁度午前發會式の時感謝獻金を會集一同が爲したが其金額十三圓を本部に寄附して會の喜びを表はしたのも諸姉に告げたい。此以上敬服した事は二十六日、二十七日の兩日早天祈禱會が六時よりあつたが、星陰を踏んで他から此會に列席した生徒のある事や、又間斷なく大勢より湧き出

づる祈の氣高さには敬虔の念を深められた。此學校に朝鮮よりの二人の留學生があるが、彼等も又祈禱會に聲を合せて祈つた事等は如何に美しい宗教的精神が同校を風靡して居るかを立證して居る。

近頃九州邊に濟世團と云ふて日蓮宗が救世軍の眞似をして居る由である。此團體が宗教上或は國際上氣に喰はぬ事は皆當女學院に被せて腹癒せをせんとして居た由である、それに雷同するものもあつて生徒の作文が生意氣とか云ふて攻擊した新聞もあつたとかで、終に梅光女學校燒打と云ふ掲示をして、演劇場で大講演會をした爲、教師生徒は萬一を慮かり包を造へていざと云はゞ逃げる丈の支度をした事も近來の事であつた。然るに又其反應で、そう云ふ學校の生徒を嫁に欲しいと申込む家庭もあると云ふて教師方は笑の種にされて居たが、兎も角も山の上の城の如く實際高地に立派に建築され、關門を眼下に見守つて居る此學校は婦人教育界の一干城である事を信ずる。

鹿兒島

廿七日米國の感謝日の御祝を共にして直に門司から鹿兒島にと出發し、翌日午前中に此有名な市に着いてメソデスト派宣教師の宅に導かれた。此處に靑山女學院出身の望月てる子氏が長らく傳道をされ、又早瀨のぶ子氏も四月から此處に於て助けられて居る、望月氏は本會第一回の修養會に出席された一人で、又早瀨氏は神戸にあつた修養會に代表者として出席されたのであつたから、靑年會には深い縁故がある、此にプール女學校出身の太田妙、ウキルミナ出身の二川竹子の諸氏が幼稚園や傳道に從事して居られるので、皆靑年會の緣續であるから尚更に嬉しかつた。鹿兒島は豫想以上に風景の美しい、教育の進歩した市である、櫻島が餘り近いので驚かされた此では爆裂の際市民が逃げたのも無理の無い事である。當市には女學校公私合せて五校あつて、其うち二校に於て講演を許された。十二月間際に生徒が素足でソーリなしで廊下を歩き、講堂には敷物なしの

板の上に端座して、身動きもせず緊張して講話を聽く態度は他に見る事が出來なからう。大島絣の産地とは云へ生徒の多くが袴も筒袖の羽織も絣であるには物珍らしかつた。滯在したミスピートの家は西郷隆盛の生處の隣である。此西郷の舊邸には家は無く塚を造へ其上に紀念碑を置き西郷の生地なるを記してある、其兩側に貴人の手植の樟腦が列をしてゐて子供のよき遊場である。其附近に大久保利通の生處も同じ風に手入がしてある。東郷大將の生地は府立第一高等女學校構内にあつて寄宿舍から此を見て偉人を偲び身膽を錬る女學生が多い事と思はれる。

當地に於ては婦人會に數度のぞみ、將來は各教會の處女會が女子青年會と何かの關係を持つて貰ひたいと云ふ希望を婦人教役者に述べて又個人訪問を受けたりして二日間を有益に送る事が出來た。日本基督教會の方にはフエリス女學校と共立神學校を出た方が二人働いて居られたが、何處に行つても青年會の會員や同情者のある事は我々の會をして成長せしむる前兆と見る事が出來やう。

天草渡り

鹿兒島市より一時間位にて汽車で國分と云ふ處に案内され、此處の小學校に於て婦人の講演會が開かれた。同村には信者と云ふものが未だ十名とは無いと聞いたが、高等教育を受けたる士にして斯る僻地に閑居し青年の淘冶に努めらるゝ故か、何となく生く々とした樣子が表れて居た。車屋は「鎌川廉先生は偉い方で東京の青山學院を御出になつて此處に來て皆の爲にして下さるほんとに偉い人だ」と賞讃して居るのを聞いても基督教的善き感化があると思はれる。其處より熊本に着いたのは翌朝の二時で連絡線を待ちつゝ停車場で假寝をして居た處が、一人が側で名を呼んだので起き上つて見ると石井牧師で、此度自分が天草に行くに就き案内を御願した御方であつた。熊本を五時に立ち三角に至り、三角から七時に天草に出航したのである。抑々天草行は昨年からの宿題であつたが、折を得ずに居た、先づ上海に行

つても女中は大概天草、島原から出て居る、賤業婦人も此處からであるし、シベリアに行つて聞くと賤業婦人の大多數は此處からで、しいてみると如何しても一度此二個處を視察せずには置かれない、處が昨年本誌がシベリアの事を掲げた際一婦人より手紙があり、是非一度天草に來て土地を視察されよとの言葉があつて尚更決心を固められた。天草郡の郡長は石井牧師の知人であるから、河井道と申ものが來ると紹介されたので、折角熊本迄出張されて居た郡長は豫定の日を早められて同日に天草に歸り下さつた厚意を感謝した。十一時に船は美しい天草に着き艀舟に乘つて小さな船着場に着き、馬車にて一里有餘の道を行つて本渡町に達して旅館に投じた。風景と云ひ、氣候といひ誠に美しい處で、田畑は豐壤らしく收穫後の麥が餘程芽を出し、大根、野菜の葉が青々としてゐるから、內地の春の樣に思れた。家並のある所には必ず薩摩芋を薄く輪切にせしものを蓆に載せて干してある、又細く刻んだのも目に着いた此は芋の無き時に餅の如くして菓子の代りに用ひ、或は米の混用食にするのだと教へられた。餘程芋の產出が多いと見えて各農家、魚家の屋根、道端、窓に掛けて居る。石井牧師の言はるゝには此處では百姓が芋を煮て、籠に入れムシヤ〳〵食べ乍ら耕作してゐるのが普通だと。本渡町と云ふ町は仲々整頓した町で道行く婦人を見ても、物賣婦を見ても、鹿兒邊島の婦人よりは、樣子も聲も溫雅の處がある樣に思はれた、想像したお轉婆のアバズレ女の特長を目にしなかつたのが不思議である。早速郡役所に行き調査したものを雜記してみやう。

天草郡は五十四方里、人口二十萬、役場が五七、町村數六三、熊本中第一の大郡である、島を大矢、上島、下島と三つに分けてある、農產額九百四十一萬八千圓、海產額三百九十六萬圓、歲入產額一千八百三十二萬圓、海外には漁夫の朝鮮、青島に行く船が七八十隻で一隻に二十人位乘つて遠漁に出掛ける時期は毎年三月に出て翌月一月に歸る。彼等は帶妻

で出掛ける故に長期間の漁業に從事出來るのである其他五島方面、千島方面に烏賊漁捕に出掛る。全郡に於ける學校數は高等尋常小學校三一、尋常小學校三九、高等小學校一、實務補修學校一四、分教場四八、實科高等女學校一、中學校一で、小學校の教育に於て高等小學校迄行く女子は極めて少數である、それで尋常でも子守をし乍ら來るのが多い。實科は私立で郡の補助を受けてゐるが、生徒は僅に百名。此土地の改善の第一歩は女子の教育と住居改善とであると先覺者は皆云ふ。海外に行く事を少しも困難な事と思つて居ないのは、海を常に見て居るせいか一寸他に行くと云ふ位にしか思つて居る。八千人を有つて居る一村の中で千八百人は天草外に行つてる處があるし、三十軒の戸數の村で一軒に一人半割合で出て居る小村もある。

行衛不明者

大正七年十二月海外にある者四千九百十二人、内行衛不明者九百廿七名ある、此海外と云ふ事は如何にも不明であつて、二千四百八十一名海外にあると云ふが是が行先が轉々變るから、何處とも云ふ事が出來ない、若し外國に行くなら洗濯屋の商賣をするとて出て行くのが普通である。若し浦鹽、ハバロスク邊に出て行く時、洗濯が商賣と云ふならば如何にもよき言も遁れと云ふ事である、何故ならば第一彼地は水の少ない土地であり、此職業は支那人が大多數を占めて居るから日本人が此方面に働く餘地の無い次第である。然らば天草は人々が稠密で土地が不毛で婦人が放恣である故に、多くの賤業婦を出すかと云へば是等の想像は皆裏切れた。土地は膨脹で人口は却つて不足の方である、婦人は從順で教へられ得る美しい處を持つて居る、すると何故海外に行くかと云ふに畢竟今でも其土地での女中奉公は一年二十圓位の相場であるから一寸海を渡つて熊本へ行けば五十圓も取れる京、大阪に來れば百圓も取れる、外國に行けば千圓取れると云ふやうな話が多くの婦人を煽動するのと、島中に婦人の適當の産業のない

事と、代々海外に出て行つた習慣と、偶々一人成功して歸ると其彼を羨望する情と、上海の如きが地理上最も近いと云ふ點からしてゞあらうと判斷するより外に道はない、加ふるに女に敎育を拒まれて居たから近頃こそ尋常小學校にヤットコサットと無理に出ると云ふ事であれば、今三十歳前後の者の子供時代には今日の如き義務敎育が實施されなかつたからば、女は殊更敎育がなく、其等が慾と無智と道徳觀念の幼稚とが相伴ふて彼等が誘拐される原因らしい、一老人の曰ふに海外に居る者が賤業でもして居ると自分の生地を陰す爲、他縣の者迄が天草だと稱し、實際ある以上多數出て居ると思はれてゐると。此處から島原は近い事ではあるが再び大陸に歸り、其處から船出する必要があるので、不幸に其時を持たないため此は後日にして急ぎ歸途に着いた。

無敎會

天草に就いて一つ思つた事は二十萬ある人口に一個所の講議所も敎會も無いと云ふ事である。然るに其に近き九州の或小さき町では七個の敎會が競爭してゐて然も微々として敎勢振はず、相反目する狀態と聞くが、此等は敎會同盟が餘程注意して共同的行動を取り、力と資金との勞費を節約して他に發展さする必要があらう。敎會や信徒個人の力及其に社會の輿論と政府の覺醒とがあれば、天草の如き良地より良民を出す事が容易ではあるまいか、

願くば日本の地よりして海外に於て悲慘な目に逢ひ、如何に醜業によつて死ぬ者があるか、虐待さるもの、病氣するものがあるかを活動寫眞に撮り、各所にて見せ、成功する者が續々あるのでなく、一人錦を飾つて古郷に歸る者あれば九十九人は犬死するのである事を無智の者に知らせる必要があるではないか、懸案にして置く。

福岡女學校

歸つて福岡女學校に立ち寄り、敎師生徒方の歡迎を受けた、同校の日々盛になる事は喜ぶべき事であ

る。此度一萬數千坪の土地を買ひ受け、立派なる校舍を立て既に使用中であるが、是より寄宿舍、家政館、教員館其他が順を追ふて建築され、資金は少くとも三十萬圓をなつて居るが、女學校の建築の美しいのも教育界の喜である。個人の住宅の改良を叫ぶと共に日本の女學校のバラック式の改良を叫び度い何も美麗を旨とするに非ずとも、趣味も養はれ、衛生にも叶ひ、居心地もよき處を與へるは贅澤と云ふべきであるまい。此點に於て福岡女學校の改築は確に當を得たものであらう。同校の青年會ではクリスマスの贈物をシベリアに送ると意氣込んで居る。歸つて見るとウヰルミナ女學校より百圓の爲替が來て居て此をシベリアの寒飢に迫めらるゝ者に送り呉れとの添へ狀があつた。實に若き人々の同情と奉仕とは日本改造の基礎であらうと思ふて深く喜び感謝に堪える次第である。

都合上長崎も佐世保も斷はり廣島も素通をしてすまぬと思ひつゝ大急ぎで歸り漸く横濱のパジエントに間に合ひ一同の歡迎に逢ひ又此催を見る事の出來た喜び歸宅したのは十二月六日降雨の烈しい夜分であつた。

東京基督教女子青年會報告

日本最初の新しき試として社會から非常の好奇心をもて期待された女子青年會パジエントは委員及幹事は勿論出演する若き姉妹等の熱心なる努力と美しき協力會員の厚き應援友人方の甚大なる同情加ふるに一同の奉仕の精神と信仰と祈禱の力に勵まされて準備した結果實に大成功であつた事は御互に深き感謝であります。又永く青年會の歷史に殘る事と思ひます。殊に冬の日の晴れた土曜日と云ふので會場は二回とも滿員と云ふ盛況でした。

當日男子側から「晝間餘りよろしかつたので夜分又友人二三人を誘ふて來た」と云ひ「僅か一日では物足りない是非いま一二日間やつて下さい」「さすが婦人は一致協力しますねあの二百五十名餘の多人數がよくもスラ〳〵出來たものだ。抽象を具體的に印象深い形式に依て現す處など新しいものだ」等と云ふ數多の感嘆の辭に刺激されて愈々弱き婦人も信仰

と一致協力の精神により山を移す程の事も出來得ると云ふ強い確信を實驗させられました。勿論役者に非らざる限り所作は確に下手と云ふ弱みがありましたが單純にして自然に眞の精神を現すことが出來れば必ず好結果を得るといふので努力しました。確に會の精神及事業を社會に少しとも紹介し得た事を感謝して居ります同時に蒔かれた種子がよき成長をするやうにと只管に祈て居ります。一交換手が有職者の部を見て餘り自分を卑下して居た事と他人の爲盡す處少かりし過去の生活を悔ひて悅びの手紙を寄せてくれました。又「私共學校の友人が非常に宗敎心を起しました」と云ふ報告や今迄家族の者が青年會に來る娘に好意なかりしが進むで行き奉仕せよと云ふ同情や色々の方面に確に種が蒔れました。今後の青年會の責任を愈々思はせられます。此パシエントに於て「市の部」に出演した人々は殆ど全部東京青年會々員であつた事は本當に誇であります。多忙な女子英學塾女子學院東京女子大學東洋英和女學校外國の學校ブラックマホールの方々には多大の同情をもて一ッとなつて御援助下すつた事に對し感謝の言葉を有しません程でございます。會場は男子青年會幹事方の御親切により我物顏に自由に拜借しました事は深い悅びでありました。此際皆の心に如何にもして女子青年會所有の大きな會館が欲しいと云ふ心が起りました。時に或婦人が即座に金五十圓を御寄附下さいまして之を五萬圓にでも五十萬圓にでもして是非建築するやうにと云ふ奬勵を下さいましたので皆で新しい希望と信仰をもて貫徹したいと思ひます故御加禱を願ひます。

十二月十二日(金)午後三時半から會館で幹部委員發起にてパジエントに出演された姉妹方をねぎらふ茶話會を開きました。會長今西糸子姉の謝辭につぎて豐田夫人の「マヽのテコ」と云ふ美しい獨唱がありました。茶菓の後一同パジエントを思ひ起し「ライトオブザウオイルド」を唱ひ互に感謝しつゝ分れましたのが五時半でした百八十名餘の出席がありました

十二月九日午後七時より會館で若夫婦八名程を御招待致しクリスマス祝會を開き思ふ存分樂しく遊びました。家庭團欒の樂しみに新機軸を開きたいと云ふ趣意からで追々斯る催をしたい計畫で居ります。「久し振りで愉快に遊びました」といふ御禮の言葉は眞實からでした。之に引續いて諸種のクリスマス祝會が十二月には擧行されますので各自責任をもて樂しく準備して居ります。大正八年の秋は多忙でした然し今迄に得られない精神的方面に祝福を與へられました。確に神の靈と共に働く時には價値ある生活が出來ると思ひます、皆樣も眞の意味のクリスマスを迎へられ且又よきお正月を迎へて愈々主に近づき奉仕の實をあげられますやう希望して居ります。新年の活動は皆樣と共に神の前に恥かしくないやう致したいと思ひます。

パジエント決算報告（十二月十五日調査）

収入の部		二、七六二、九五〇圓
内譯	切符代	二、七四六、九五〇
	寄附	一六、〇〇〇
支出の部		三四九、〇二〇
内譯	郵税	二三、六三〇
	雜費	五三、三四〇
	印刷代	八四、六九〇
	會場費	一〇〇、〇〇〇
	小使手當	七、〇〇〇
	装飾費	三一、二六〇
	接待費	四九、一〇〇
差引純益高		二、四一三、九三〇

附記　會員諸氏には此決算報告を別に差上げませんで誌上で略します。

横濱女子青年會パジエント報告

横濱パジエントは豫定通り十二月六日午後二時及び六時の二回に當市紀念會館に於て催され大成功を以て終りました。五月の豫行練習は前から可成心配

して居りましたが見事失敗に終り手傳に來て下さいました七人の委員の方々と共に翌日の事を案じ其夜も餘りよく睡れなかつた事も今は樂しい思ひ出と成る程六日は以外の成功で今は感謝と滿足で充ちて居ります。當日は早朝からの雨に拘らず晝夜二回共に實に盛大で「之で河井先生に見て戴く事が出來たら此パジエントも完全だのに」と皆が申して居りました處九州御旅行中の河井先生が不意に夜の部に御出席下すつた事又神戸から大呑久子氏が態々パジエントの爲御出席下さいました事は私共にとり大變な驚と喜と感謝でございました。純益はまだ判然とは分りませんが豫定の千圓を貳百圓計超える樣でございます。此催によりまして斯樣に物質上の必要を與へられたのみならず之によつて傳道的種子が人々の心に蒔かれ又多くの人に青年會を紹介し且又入會希望者の續出する事或は個人々々のパジエントに對する感想を聞く毎に神の惠の思ひに過るものなるを今更知りました。又觀客のみならず出演者も此度の催により得る所少くなく又私共働く人も之により一致したる祈の精神と神の恩寵とを深く知り斯樣を催をなす機會を與へられし事を感謝して居ります。此度の成功は全く神と人との力に依る事と存じますが東京から手傳に御出で下さいました内外の職員の方々に厚く御禮申上ますと同時に私共より一週間前にあつた東京のパジエントは當青年會の大成功を助くる大なる力であつた事を一言御禮申上度いのでございます。（横濱幹事報告）

消息（三）

○三上かなを氏　新潟市濱田中町片桐小路に轉居さる。十一月御出産ありしも愛兒を失はれたり幸ひ姉は健康を復され信仰强き日々を送らるゝ由。

○クリスマス祝賀會　本部東京市部の女子青年會の職員委員敎師一同約七十名十二月十六日神田會館にて、三寄宿舍は二十日に、本部東京横濱の幹事職員のみの祝賀會は小石川の幹事宅にて二十二日に、東京青年會員の禮拜は二十一日會館にて、其他各部の祝賀會は諸所にて開催されたり。

○ミス、チエンバース　京都に一年語學を研究し幹事の準備なりしが病氣の爲十二月二十九日米國に歸國さる。

金の星

小女の友

昔ある處に一つの深暗い森の中に大變に立派なお城が御座いました。此森には色々な怖ろしい鬼が住んで居りましたが幸に御城には立派な武士達がゐて其處を通る旅人を保護して居りました。此武士達の鎧は大變華で、其甲には赤い羽がついてゐました。其で萬一鬼や盜賊に逢つた者があれば、遠くからその武士の姿を見とめる事が出來ました。此甲冑の外に不思議な楯を持つて居りました。此楯は銀で出來てゐて或時は太陽の樣に光つてゐますが、時によると霧が掛つて居る樣にぼんやりと曇るのであります。此楯は仙人が造つたので實に不思議なものでした。初めて武士が此を貰ふ時は何時も兩面とも曇り勝ちですが、少しでも働くと漸々光り出し、困つた人を助ける樣な場合にはその光が太陽の樣に輝ります。然れども彼が他人を惜んだり義務を怠たつたりすると其楯が曇つて來ますので、その楯で彼等の努力が解りました。是許りでなく、今一つ不思議なるは、若し彼等が特別な偉功を奏しますと、其楯の眞中に金の星が自然と輝き出るのです。然れども餘程永い間働き、年を取らなければ此星は仲々得られません。此城には此星を得た者は唯一人卽ち君主しかありませんでした。

ある日此森に鬼の長が出て來て大層旅人を困らせると云ふ噂が立ちました。王樣は武士達を集め協議をなさいましたので、一同は勳功をたてやうと夜も眠られませんでした。

彼等の中に極年の若い武士がありました、年若いとは云へ彼の楯は常に輝き、彼の性質をよく表はして居りました。どうか此大征伐に自分も加はり度いものと願つて居りました、が愈々出發の時一同を集めて王樣の云はるゝには「此うち大膽なナイトが一人殘つて城の門を守らねばならぬ、サー、ローランド、其方は一番若年であるが、我汝に護衛の任に命ず」とありました。ローランドの失望は大變なもの

でした。我先に出征しやうと思つて居たのに殘して行かれる、殘念であると人を悔みもしましたが、已を制して其護衛を勸めました。

城は堀で圍れ、内から釣橋が掛り、危急の場合は衞士が鐘を鳴らすと此橋が引き上げられて、誰も城内に入れない樣な仕掛になつて居ります。今日は一同が大戰爭に行つた事であるから、敵も此處に寄せる事はない、つまらない弱い者でも門の番位出來そうなものだのに、あのローランドの樣な勇者を此處に殘して行くのは殘念だと他の者も思ひました。彼は皆を見送つて徒然と立つて居りましたが、やがて一人の騎士が來て「私は負傷をしてとても戰へないから貴君の代りに門を番します、早く出征なさい」と云ひましたので、ローランドは大變嬉しく思ひましたが、考がへて見て「我は此處に居れと命ぜられたのである、故に主君の命でないと此處を去る事は出來ない」固く斷つて動きませんでしたので其騎士は去つて終ひました。一時間程すると乞食の女が來て城に入れて食物を呉れと乞ひました、然しローランドが城には今日誰も入れることは出來ない、食物が入るなら此處に待つて居れ、僕に運ばせてやるから、と云ひますと乞食は「今日私は森を通つて來ましたら氣の毒なことに、武士達は敗軍ですから、貴君が行つて助けたら如何ですか、一人新しい戰士が行くと皆が力づきます、今此處に敵が居るわけでないから、此處に居ても無益でせう、早く行きなさい」と申しました。若者は主君よりの命であるから動く事は出來ないと返事しますと、憶病者と罵り嘲うのです。其を見たローランドは實に殘念がり若し男子ならば此まゝにして置くまいが女であるから乞食とはいへ我慢し自制する爲に門を閉めて終ひました。暫くすると外側に又呼ぶ聲があります、門を開けて見ますと、橋の向ふに年老いた小人が立つて居ります。今日は城は閉つて居るのに、何の用事かと聞いて見ると、「貴君はローランド閣下でせうまあ此處にグヅ〳〵して居る時でありません主君も

御家來も敗軍です、今行くなら戰功を立てる事が出來る、私の靈劍を差上げますから直ぐ行きなさい」と云ひ乍らダイヤモンドの樣にまばゆく輝く劍を見せました「此を一振りすれば何物でも倒れて終ひ戰はずに、勝ちます、」斯う云はれて見るとローランドの心は亂れに亂れてそれを持つて森に飛んで行きたくてなりません、我不知手を出して小人の方に行かうと歩きだしたが、俄に思ひ出した事は自分の責任でありました。「いゝえ貰ひません」と力の入つた一聲を出し踏止まりますと、小人は又も其劍を振りかざし「上げます、勝ちなさい」と云ふのでローランドは是を聞いて居れば、到底此誘惑に勝てぬものから、急に鐘を鳴し僕を呼び橋を引き上げて終ひました。小人は城に入る事は出來ず、ローランドは向ふに行く事も出來ません、それで彼は門から向ふの小人を見て居りますと、小人はコートを取ると思ふと直ぐにダン〳〵大きくなつて空をも凌ぐ樣な大きな鬼に化りました。ローランドは自分の目を疑ふ程驚き「まああの刀でおびき出されて此護衛を怠つたら落城したであらう。」鬼は握拳ふり上げ歯切をし憎さうに此方を睨み付けて歸つて行きました。

數刻すると嬉しい角笛がして喜の聲が聞えて來ました、門を開けると家來一同が血に染み疲勞し切つて居りましたが大勝利を博したので、大層な喜を聲にも樣子にも表はして歸つて來ました。其から城内で凱旋の祝賀會があり戰功の發表と云ふ事になりました。ローランドは之とした功をたてたのでなく唯城の鍵を渡し、無事に留守をしたとの報告の爲主君の前に進み出ました。彼が敬禮をし、話そうとすると側に居た武士等が「楯！楯！ローランドの楯を御覽なさい」一齊に叫びました。彼は左の腕に抱へた楯を上から見ましたが別に變つた事はありませんけれども近邊の者からは彼の楯の眞中に金の星の輝いて居るのが見えたのです。「ローランド、今日此處で何があつたのか、敵の襲擊があつたのか、鬼の攻擊て來たのか、其方一人で彼等と戰つたのであるか」

と重々の問に對し、「我君よ、唯一人鬼が此處に參りましたが城内に入れない事を見て怒つて歸つて行つた丈です、今日は別に大した事は有ません」彼の平然たる答と輝く金の星とに皆は驚く許りで室内が森として終ひました。主君は徐ろに曰はるゝに「人間は違ひをするが吾等の楯は決して間違ふ事はない、今日一番むづかしい、苦しい戰をして勝つた者はすー、ローランドである」と、一同の武士が起つて此若いローランドに最敬禮を致しました。

友垣

浦汐　脇　みさ

露國は例の通りに益々亂れ近頃は何が何やら誠に淺ましき至りに御座候一昨日よりチエック軍の將軍ガイタと現政府との間に市街戰御座候て二日間大砲の音になやまされ我皇軍は市内守備の任に當り在留民には異狀なく露軍の方にも大分死傷を出し本日も尙戰死人を道側に捨てある由に御座候戰は本日迄に全く止み申候今後如何になりゆく事に御座哉。河井先生の御のこし被下候婦人會は益々盛に毎月例會外に日を定めてクリスマスの仕事も致居候まゝ何卒御安神被下度なほ此に此會の上に御惠の豐かにあらん事を御祈り被下度御願ひ申上候。當地教會にては相見姉の御令孃十八歳にならるゝ方先月二十一日永眠なされ極めて立派なる御信仰にて教會員の讚美歌を聞きつゝ召され申候外に婦人會員一名只今チブスにて危篤に御座候何卒御いのりを御願ひ申上候。當地婦人會より金五圓寄附申上候

上海　小原すゑ

上海の教會もだん〱盛にはなりますが何しろ未だ新らしい爲も出來ず何とかして今迄の仕事の外何かを致さねばならぬかの樣に思ひ居りますが何しろ何も知らぬ私の事なればせめては指一本にてもなつて働き度いと神に祈り縋るものであります先生何卒上海の教會の爲に御祈下さる事を御願ひいたします。

維持會費今日送りますから宜しく御願ひ申上ます。

消息（四）

○鈴木みよし氏　結婚の爲米國加州に十一月出發されたり。

○橫山きち氏　東海道小山富士紡績會社に永く主任看護婦なりし同氏は十二月十八日芹澤浩氏と結婚せらる同氏は引續き同會社の保育所の主任として奉職せらる。

○原田愛子氏　九段メソヂスト教會に働かるゝ同氏は每週東京青年會に於て求道者の聖書の話を擔當さる。

○島本操氏　長府なる同夫人は今回特別會員となる。

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税	内地	海外
一部	金十錢	金拾三錢
一年前金	壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料	
一回揭載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓
年極又は回數により割引有	

大正八年十二月廿八日印刷納本
大正九年一月一日發行

發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　日本基督教女子青年會　電話番町四五六三番　振替東京二一七二三番

發行兼編輯人　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　河井道子

印刷人　芝區愛宕町？　前川吉太郎

印刷所　右　三成合

△基督教とは何ぞや　後藤榮吉著　定價貳拾錢　郵稅四錢

▲基督の如く　マーレー博士著　定價壹圓　郵稅六錢

△新生命　定價七拾五錢　郵稅八錢

▲新約入門　定價拾五錢　郵稅四錢

△祈禱の能力　ゴルドン先生靜話　定價壹圓廿五錢　郵稅八錢

▲靈的生涯　改譯　定價廿五錢　郵稅四錢

△天路歷程　定價九拾錢　郵稅八錢

▲基督傳　ストーカー博士著　定價五拾錢　郵稅四錢

△保羅傳　同　定價五拾錢　郵稅四錢

▲日々の光　定價六拾錢　郵稅六錢

△捕はれぬ信仰　ヘースレット、尾島兩君共著　定價壹圓　郵稅八錢

▲六十六卷の基督　笹尾鐵三郎君著　定價壹圓五拾錢　郵稅十二錢

△利未記講義　バックストン師述　定價八拾五錢　郵稅八錢

▲詩篇の靈的思想　定價五拾錢　郵稅六錢

△約翰傳講義　定價壹圓廿五錢　郵稅拾貳錢

▲使徒行傳講義　定價壹圓拾錢　郵稅拾貳錢

△羅馬書講義　ウイルクス師述　定價八拾五錢　郵稅八錢

▲小豫言書の研究　堀内大屛兩君共著　定價壹圓拾錢　郵稅拾貳錢

△基督教百話　三谷種吉君著　定價八拾錢　郵稅四錢

▲聖書研究の快樂　三浦徹君譯　定價五拾錢　郵稅六錢

△聖句便覽　定價壹圓拾錢　郵稅八錢

▲舊約史談（上下）　定價各八拾五錢　郵稅各八錢

△舊約旅行すご六　ホイトニー夫人編　定價貳拾五錢　郵稅四錢

▲青年修養訓　吉川潤二郎君譯　定價四拾五錢　郵稅四錢

△かたみのボタン　本田增次郎君譯　定價參拾五錢　郵稅四錢

▲本當の息子　原成吉君譯　定價參拾五錢　郵稅四錢

△光の子　定價參拾五錢　郵稅四錢

▲古琴　三浦徹君譯　定價參拾五錢　郵稅四錢

△むかし物語　定價參拾錢　郵稅四錢

▲闇路の燈　定價四拾五錢　郵稅六錢

△ジャック　廣田花崖君譯　定價四拾錢　郵稅四錢

▲ゼシカの最初の祈　定價貳拾五錢　郵稅四錢

△ゼシカの母　定價貳拾五錢　郵稅四錢

▲愛子　定價貳拾五錢　郵稅四錢

△猫のお客　鈴鹿正一君譯　定價參拾五錢　郵稅四錢

▲はゝ心　定價貳拾五錢　郵稅四錢

△小な枕　定價廿五錢　郵稅貳錢

回　發行以來好評嘖々無慮四萬部を印刷し讀者に無上の慰安を與へつゝある

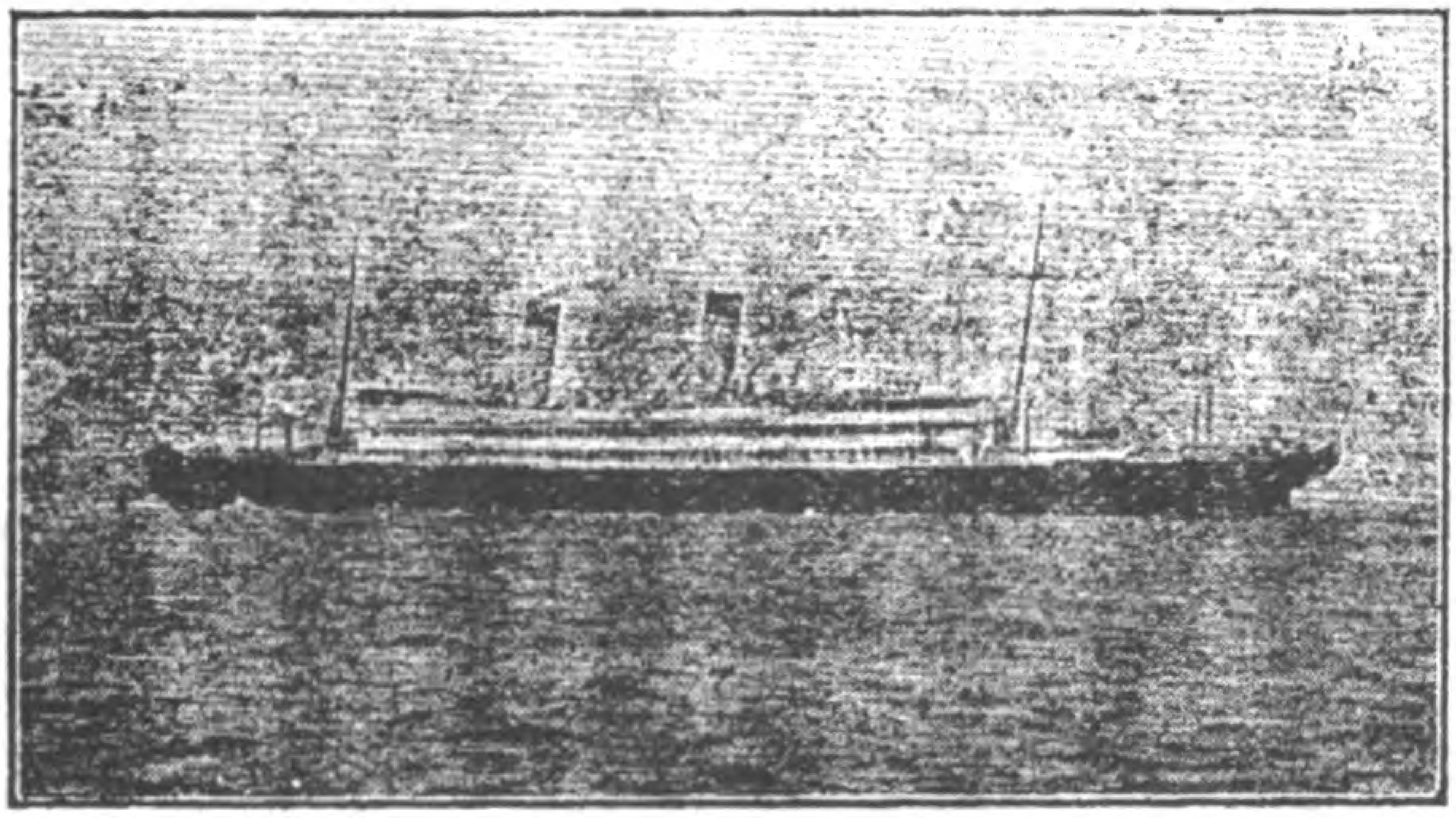
旅行案內　三六版三百十六頁　特價十錢郵稅六錢

至廉にして而も**最良**の讀物なり

發行所　東京市赤坂溜池町卅番地（外濠線電車溜池停留所前）

基督教書類會社　電話芝四五七四　振替東京二二七三

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話四〇八〇、四〇八一 本局四九六一、一五三一番）

營業所 横濱市山下町五番（電話四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング、マニラ、チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルヂング、ホノルヽ、アレキサンダー、ビルヂング）

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルヽ、桑港 維府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

Miss Hard and Miss Yamamoto, the General Secretaries of the YWCA in Osaka escorted a group of Association girls to Kyoto recently to attend the Art Exhibit. They reached Kyoto at ten in the morning which gave them time to visit the Kyoto. Association and have lunch there.

Early in December, one of the active workers in Kyoto, Miss Tamura consented to give part of her time for a month to assist with the survey of the city which is being made by the Association. In almost every instance she has been accompanied by a foreign secretary, but in one of her trips to the City Hall she went alone. One of the men she interviewed was so impressed by the sact that a Japanese girl was so kneenly desirous of getting accurate information about her own city that he said "If our girls are going to be like this, we men shall have to work hard to keep ahead of you". In the telephone exchange railway stations, weaving factories, schools, stores —in fact everywhere the Association representatives were treated with the greatest courtesy, and detailed information as to hours, wages, housing conditions etc has been given without the slightest hesitation.

KOBE

On November 16th a joint meeting was held with the Kobe College Association members, especially for the World's Week of Player, Miss Onomi of the City Association was the leader and the guests of special note were a Hindu lady, Mrs Vesuuia, and two Chinese young wemen, the Misses Chang. This is the first time that some of the many women of other nationalities resident in Kobe have been present ot one of the YWCA meetings.

In their weekly staff meetings, the sectetaries are using Professor Rauschenbusch's ooi al Principal of Jesus"

On December 8th a meeting of the Promoting Committee was held in which it was decided to begin work for a domitory in earnest, and as soon as the holidays are over, work toward that will begin.

The Kobe Association has moved its heakqnarters to the corner of Motomachi and Nishimachi and has quarters twice as large as in their former location, Tney will be happy to receivee visitors at any time at their new adress (243 Motomachi Itchome) This is the most conspicuous corner of Kobe's shopping district, as well as the original street of Kobe which comprised the whole of the city sixty years ago.

large crowds attended and the same results as in Tokyo are being seen in the after reports of those who attended. Mothers and fathers of young girls have been heard to remark that when their children are old enough they wish to have them become members of the Association. The girls who took part have said that they would never forget the spiritual lesson they had learned while taking part.

The Yokohama Board is planning for a large membership campaign early in 1920, and is busy with preparations for it.

The YMCA hall was engaged for a party given by the Boad women for the girls who took part in the pageant. Every one felt the great need for adequete accomodations for the Young womens Christian Association and it is hoped that the desire will materialize into something real before long.

The Yokohama Association held three Christmas parties and a service on the Sunday before Christmas for all the members.

OSAKA ASSOCIATION

The recent work in the Osaka Association has been the cultivation of the general membership and the extension of the knowledge of the Association. Duriug Miss Adams' visit, five parlor meetings were held to reach groups in different parts of the city and suburbs Some of the attendants were Christian, others were "coming-faith" people, in the phrase given to inquirers nearly arrived at decision for the Chritian faith. Many of these told of the great helpfulness of the meetings in giving a clearer understanding of Christianity. The meetings had their climax in a mass meeting for women held in the Kokaido, the municipal hall, Nov. 22, when Miss Adams, Nishino San and Kawai San were the speakers, and the music was given by a large chorus of mission school girls. The total attendance at the series of meetings was over 850. The parlor meeting andiences were chiefly of married women, and at the Kokaido meeting were many government school girls. As business girls had no chance to attend any of these meetings, a special vesper service was held for them the following Sunday, conducted by the Busineas Girls' Club, at which Kawai San spoke.

Attendance increases at the English classes and there is a new singing class under the inspiring leadership of Mrs. Converse. A nigh school class has also been started in Japanese subjects with a prospect of growing numbers. Plans for Christmas include a party for the numerous teachers of Association classes, Dec. 20; the Christmas vesper service of worship, Dec. 21, at which the Wilamina School girls will furnish the music and a party for the class girls, Dec. 23, when the pageant of "The White Christmas" will be given A kindergarten has been opend next door to the Association by friedds of the Y. W. C. A. Our girls are helping in this as volunteer workers, in the daily program, the Sunday morning Sunday School, and in the Christmas plans.

Osaka expects to have again this year a Community Christmas Tree. Last year for the first time, some Christian business men of the city provided such a tree to give the school children a right idea of Christmas. The Tree was set up in the Kokaido and suitable speeches were given by the Governer and Mayor of Osaka. School children are to have a part in the exercises this year.

KYOTO

November and December were month of many quests at the Kynto Association center. Among those who were entertained were seven members of a Travel Party who were "seeing Japan" under the leadership of Mr Worley, a former missionary in this country. The secretaries took the guests to the homes of two of the volunteer workers, where they were entertained with Japanese music and refreshments. They were especially enthusiastic over the lovely gardens and the charming hostesses and said that they had understood more of the spirit of real Japan from their visits.

TOKYO.

One of the epoch making events in the history of the Tokyo Association was the pageant "The ministering of the Gift" which was given on November 29th in the hall of the YMCA. It is estimated that more than 4000 people attended the two sessions—afternoon and evening, and their appreciation is shown by the fact that a number of them who attended the pageant in the afternoon, returned in the evening with friends. 250 girls took part—100 of them members of the Tokyo Association and others cooperating from the various school YWCAs of Tokyo. The most conspicuous characteristic of the pageant was the spirit in which the girls took part, showing a real understanding of the spirit of service—which the pageant was intended to portray. Since then reports and letters have been coming in from many sources, showing that the audiences also had a new vision of service and were deeply impressed.

A member of the Tokyo Association was so mueh impressed by the need of the Tokyo Association for larger hall space at the time of the pageant that she sent in a gift of 50 yen to be devoted toward a fund for such a purpose.

The Pageant



A wide variety of Christmas meetings was held by the Tokyo Association including a party for young married couples, who so seldom have a chance at social contact. A supper was given by the Board of the Tokyo Association for all committee members, teachers and secretaries in the Association as well as for the National Committee members, and staff. Miss Adams gave a Coristmas talk on this occasion. Other celebrations included a party for all paticipants in the pageant, a dormitory party for the 81 dormitory girls, an English Speakina Society party, a party for medical student, and celebrations for the four little Sunday Schools conducted by the Association members. Another interesting meeting was the one planned by the girls who took part in the Industrial Episode in the Pageant for warking girls. On the sunday before Christmas a special Christmas sevice was held.

YOKOHAMA

The event of December in the Yokohama YWCA was likewise the Pageant, which was given the week following the one in Tokyo. Although the weather was bad,

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 17 | January 1920 | Number 1.

NATIONAL

Miss Kawai spent the latter part of November in Southwest Japan visiting several Associations and places where there must be works tarted in the future. In Osaka she helped the Association with their preparations for a building campaign which they hope to inaugurate in the new year.

The progress of thought among women in the country was illustrated trated in a meeting which Miss Kawai attended in Osaka. It was called by the Asahi Newspaper of Osaka and representatives of various womens organizations from Nagoya south attended to the number of 206. In the afternoon meeting which was opened to the public, and at which various questions relating to women were discussed, more than 5000 womens were in attendance.

The effect of opposition in strengthening character is cleary seen in the Baiko Jo Gakko in Shimonoseki which Miss Kawai visited on November 25th. An active Buddhist Salvation Army has developed in the city and they have opposed the school in every way possible. The effect of this persecution has been the strengthening of the Christians of the city and the promotion of a spirit of unity among them that promises well for future leadership.

Miss Kawai also visited Kagoshima during her trip and held several meetings in connection with schools for girls and womens' societies in the churches. It has been suggested that the work of the churches of that city in behalf of young women might be united under an organization affiliated with the YWCA of Japan.

One of the reasons for Miss Kawai's trip was the necessity for investigaling conditions in the Island of Amakusa, just off the coast of Kumamoto. It is said that that island furnishes a large proportion of the prostitutes who go to Siberia and the coast of China. She found that the standard of womens' education was very low in the island, there being only one poor high school for girls among a population of 200.000 people. Also she found that there was no Christian church, no preaching place and only one Christian teacher in the entire island. She came away very much impressed with the immediate necessity for giving the people there the Christian message.

There is a prospect of a conference grounds being secured in the vicinity of Atami. The proposed site is on the sea, with bathing facilities for hot days, orange groves with plenty of fruit all winter, and a view that is all one could desire. When plans are matured, it is hoped to secure part of the money for this land by the sale of shares to the various Association members, as many as possible paying for a plot six feet square.

The National foreign secretaries have recently moved to the home of Dr and Mrs Nitobe, 75 Itchome, Kobinata Daimachi, Koishikawa, Tokyo. This house is to be used for the home of the National foreign staff and for the work of Mrs McLean, the Hostess Secretary of the National Association. Among the first guests in the new house were Miss Denton of the Doshisha Girls School in Kyoto who came north to attend the National committee meeting in December and Mr and Mrs Kishi, who are sailing for Liverpool where Mr Kishi is to be the Consul of the Japanees Government.

女子青年界第拾七卷第一號（毎月一回一日發行）
大正八年十二月廿八日印刷納本　大正九年一月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可